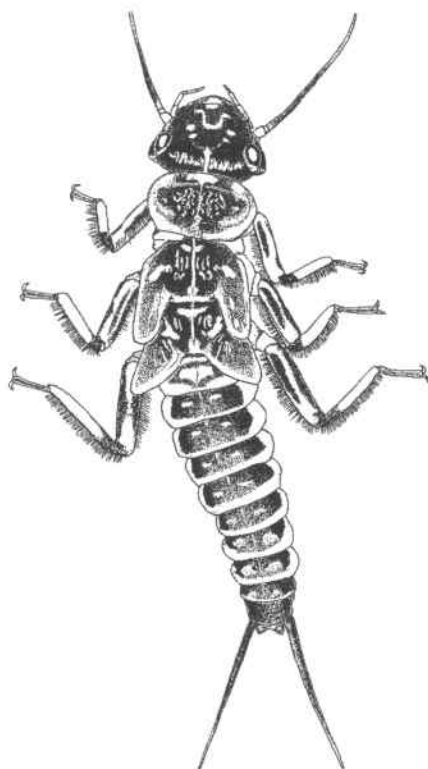


紀 要

第 17 号



《平成 20 年度》

茅野市八ヶ岳総合博物館

目 次

I 茅野市柳川・上川の定期定点観測による気温・水温・p h・電気伝導度の経年変化	茅野靖夫	(1)
II 市民による茅野市の河川の水生昆虫調査報告	茅野靖夫	(5)
III ミヤマシロチョウ生息地における 保護・保全活動について（経過報告）	宮下りよ	(12)
受領・購入図書目録 2000 年度		(16)
平成 20 年度 茅野市八ヶ岳総合博物館・八ヶ岳麓文芸館事業報告		(27)
博物館協議会委員名簿		(34)
八ヶ岳総合博物館専門委員名簿		
八ヶ岳総合博物館職員名簿		

第 17 号発刊によせて

平成 20 年の茅野市博物館協議会の研修旅行先は、十日町博物館でした。同館には尖石考古館や井戸尻考古館に見られるものと同様の国宝の見事な火焰土器群が展示されていました。それらを解説して下さったお話の中で「土器の装飾を火炎だとして通常全国的に火焰土器と呼ばれているが、果たしてそうでしょうか？この土器群はむしろ信濃川の荒波を想定した波とそこを遡上する鮭と考えた方が適切ではないか！」との趣旨でした。びっくりしました。私たちの八ヶ岳山麓では想像できない水の凄まじい形相を捉えたのだとおっしゃるのでしょうか。場所を変え違う視点に立てばまた物は違って見えてくることを改めて教えていただいたような気持ちになりました。

市の長期ビジョンが平成 20 年に検討・設置され、縄文人の情熱を再び市民のパワーにとパートナーシップのまちづくりが一層力強く進められることになりました。当博物館で進める生涯学習もさらに積極的に、市民の皆様と手を携えて進める活動でなくてはならないと改めて肝に銘じているところでございます。各種企画展、ふるさと講座、ロビー体験講座等、より興味・関心をもって参加してもらえるものに腐心していかなばと思っています。本年の行事等を少し振り返ってみて次へのよすがとして行きたいと思います。

平成 20 年の企画展は「八ヶ岳の川と水の中の生き物たち」でした。当館では過去八ヶ岳の植物、鳥、動物等生き物に焦点をあてた企画展を開催してきましたが、水の中の生き物を取り上げたのは今回が初めてでした。藻類から水生昆虫、魚類、鳥類へとつながる食物連鎖を中心に、写真や標本、データーで展示しました。信州からは絶滅したタガメ、見ることの少なくなったミズスマシ、ゲンゴロウ、タイコウチなど展示しました。標本に熱心に見入る姿がありました。

続いては、茅野市制 50 周年を記念して「写真でふりかえる茅野市の 50 年」を企画しました。たびたびの豪雨による大被害の様子、現在の市の中心部が全く田んぼばかりであった頃の写真を見て懐かしい話題に浸る方々など和やかな雰囲気にも包まれる場面もありました。

一方岳麓文芸館では小平雪人の生涯を俳句にまつわる話題を中心に展示しました。雪人の残した短冊等は膨大なもので、諏訪中の方から「家にもある」「おらちにもあるが解説してくれないか」など大きな反響を呼びました。忘れ去られようとしていた雪人がクローズアップされ、多くの家に残されていた古い短冊等が雪人と共に見直されたのではないのでしょうか。

直接博物館活動と結びつくものではありませんが「茅野ミヤマシロチョウの会」の方々の活動も目を見張るものがありました。新聞、テレビ等で度々報じられたようにその活動の第一歩が力強く踏み出された一年目でもありました。これからも熱心に活動が展開されるものと思いますが、その活動から得られたミヤマシロチョウの新しい知見などありましたらぜひこの紀要にお寄せいただければと思っております。この号では今年度の活動の一端を載せていただきました。

来館された方々、また博物館活動にご協力いただいた多くの方々に感謝し、本年もここに当館の活動記録を掲載できることを感謝いたします。

平成 21 年 3 月 31 日

茅野市八ヶ岳総合博物館

茅野市八ヶ岳岳麓文芸館

館長 茅野靖夫

I 茅野市柳川・上川の定期定点観測による気温・水温、pH、電気伝導度の経年変化

1 はじめに

私たちは、私たちの生活に深い影響を与えている八ヶ岳から流出してくる川水の水質について、観測定点を柳川に3点、柳川が上川に合流した後に1点、計4定点を設けて定期的に観測している。観測項目は、気温・水温、pH、電気伝導度である。観測地点は、図1に示したように、柳川では、上流から美濃戸、大泉山東の多留姫神社、小泉山西の下古田、上川と合流した後の本町東（御座石神社東）の4地点である。また、観測器具チェックのため、当博物館の水道水も同時に測定した。

観測地点の標高は、美濃戸が1,500㍍、多留姫神社が1,000㍍、下古田が900㍍、上川本町東（御座石神社東）が800㍍である。柳川の流程は上川までおよそ20㍍である。観測地点間の距離は、美濃戸から多留姫神社まで11㍍、多留姫神社から下古田まで3.9㍍、下古田から上川本町東まで1.8㍍である。

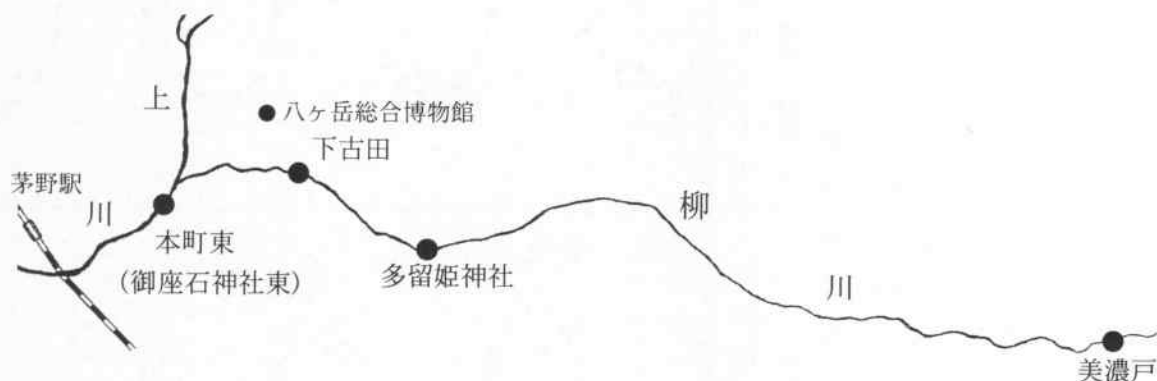


図1 茅野市柳川、上川の定期・定点観測地点



図2 調査地点景観 左上：美濃戸 右上：多留姫神社 左下：下古田 右下：本町東 2009.3.8

調査は毎月中旬を目処に行なった。調査器具は次に示した。

- (1) 気温・水温：水銀温度計…標準温度計との差で補正
- (2) 電気伝導度：YOKOGAWA MODEL SC82、Yokogawa Electric Corporation…定期的に標準液で更正
- (3) pH：KKK・水素イオン (pH) 比色計、基準科学研究所…定期的に同研究所新比色管と交換

2 気温・水温の変化

各地点における気温・水温の変化は図3に示した。気温は観測時間がまちまちであり、正確に比較することはできないが、年変化のおよその目処になるかと思いグラフ化しておいた。

毎年気温・水温ともに夏場にかけて高くなり、冬場にかけて低くなる。全般的に標高が高いほど気温・水温ともに低い。

まず、柳川、美濃戸で水温の一番高かったのは2006年9月18日の13.5℃であった。最低は2008年1月17日の0.6℃であった。美濃戸の水温は0.6～13.5℃の間で変化しており、その差は約13℃である。

次に、多留姫神社では最高水温は2006年8月16日の19.5℃であり、最低は2008年1月16日の1.2℃であった。多留姫神社では1.2～19.5℃の間で変化しており、その差は約18℃である。

下古田での最高水温は2007年8月16日の22.2℃であり、最低は2008年1月16日の0.5℃である。下古田では0.5～22.2℃の間

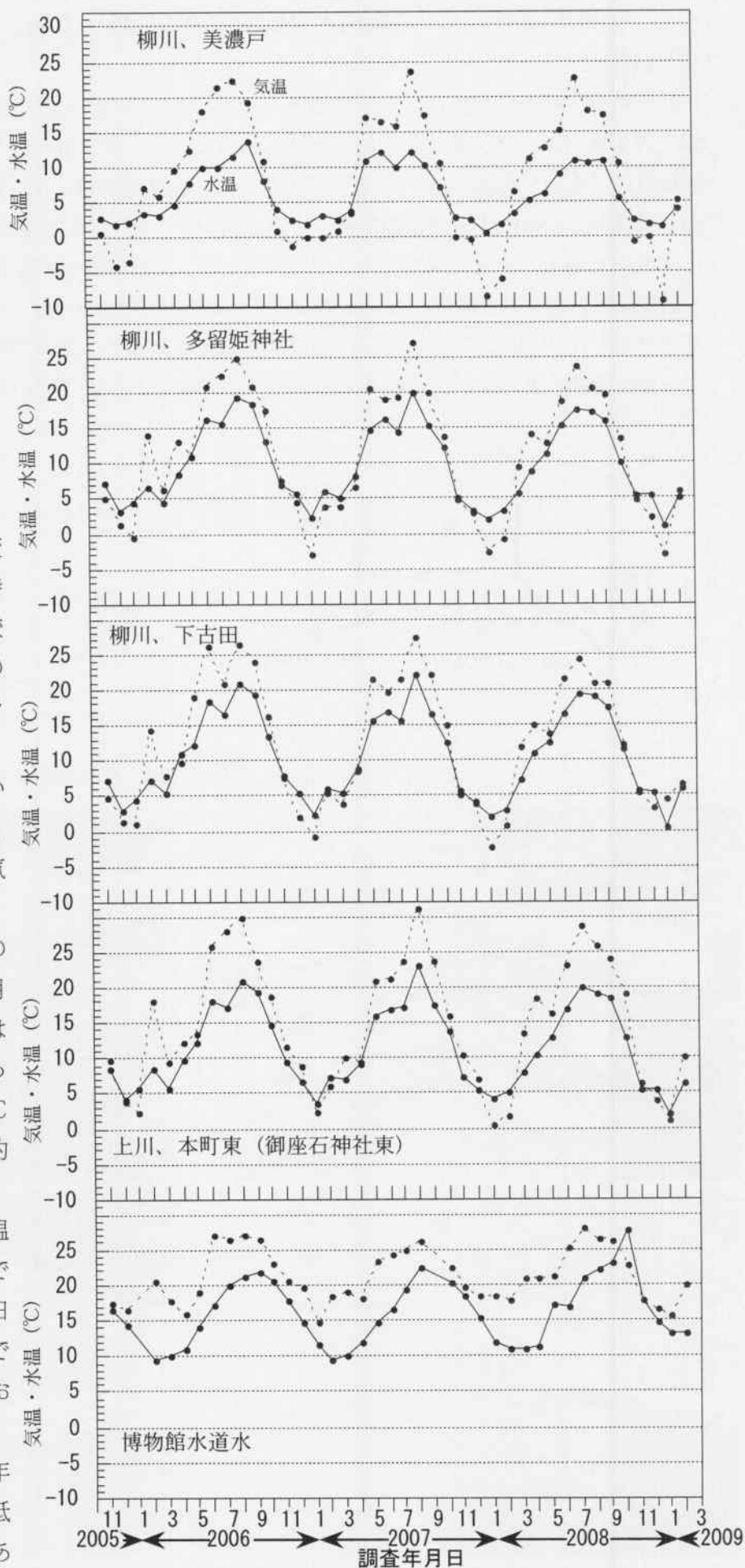


図3 柳川の気温・水温の年変化

で変化しており、その差は約 21℃である。

上川、本町東での最高水温は 2007 年 8 月 16 日の 23.0℃であり、最低は 2009 年 1 月 16 日の 2.0℃であった。上川本町東では 2.0～23.0℃の間で変化しており、その差は約 21℃である。

水道水の最高水温は 2008 年 10 月 18 日の 27.8℃であり、最低は 2007 年 2 月 25 日の 9.4℃である。水道水は 9.4～27.8℃の間で変化しており、その差は約 18℃である。

2009 年の 2、3 月は例年より温かい日が続いて温暖化の影響だと言われたが、2009 年の 1 月は、少なくともこの 4 年間では最も低い水温であった。

3 pH の変化

pH（ペーハー）は柳川美濃戸では 7.0 を下回るが、下流にいくにしたがって、上がっていく傾向にある。鉱泉の影響を受けて 7.0 以下である美濃戸では年間を通して弱酸性であるが、11 年下った多留姫神社では 7.0 を上回る月が多くなっている。さらに下流の下古田では 7.0 を下回ることとはなくなっている。

上川、本町東では上流よりわずかではあるが平均的に上回っている。2006 年 8 月 2 日の 8.2 の値は、上流でのセメント工事か何かの影響であろう。

水道水も 7.0 を超しており、特に 2008 年は、7.5 を超す月が多くなっている。

4 電気伝導度の変化

各地点における電気伝導度の変化は図 5 に示した。

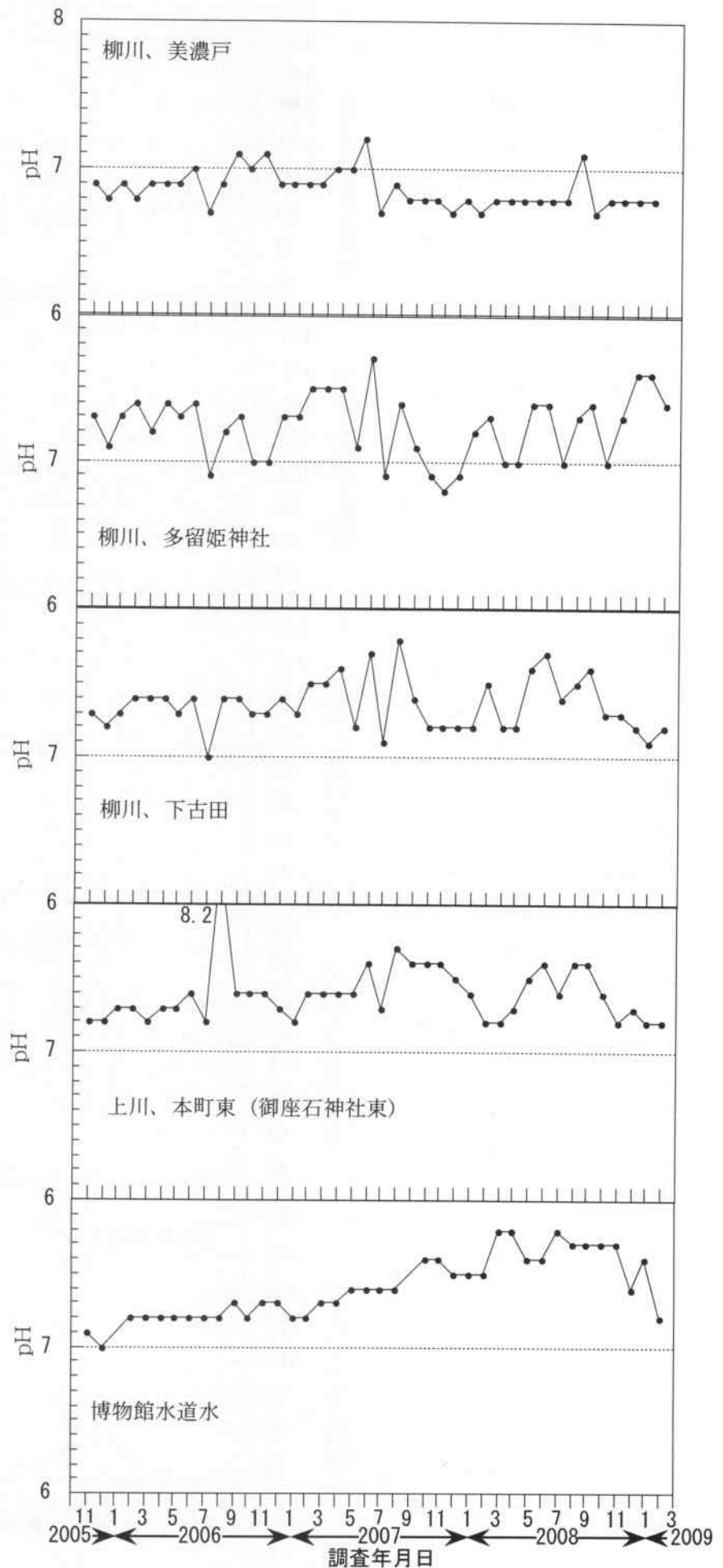


図 4 柳川の pH の年変化

電気伝導度は夏場にかけて高くなり、冬場にかけて低くなる傾向があるのだが、ここ3年、毎年7月に豪雨があり雨水で川水が雨によって薄められ、その傾向が分かりにくくなっている。その点を考慮すると、夏場に高く冬場に低くなる様子が見つめる。全般的に上流ほど電気伝導度は低く、下流になるほど高い傾向にある。

まず、美濃戸は2008年5月までは $100 \mu\text{S/cm}$ （マイクロジーメンスパークメートル、現在は S/m ジーメンスパークメートルが使われている）を超えることはなかったが、2008年9月には $113 \mu\text{S/cm}$ まであがった。理由はよく分からない。

多留姫神社では、田畑からの流入水、家庭雑排水等の流入により電気伝導度は大きな値を示すようになる。

下古田でも極めて似た傾向にあり、この両地点では蛍がかなり発生するそうである。このくらいの水の汚れ方が蛍の生息には適当なのであろう。

上川に合流すると流量も増え薄められるのかやや値は下がっている。

水道水は毎年規則正しく変化し夏に高く、冬に低い。全体的に値は低く、素晴らしい水質であることが推測できる。

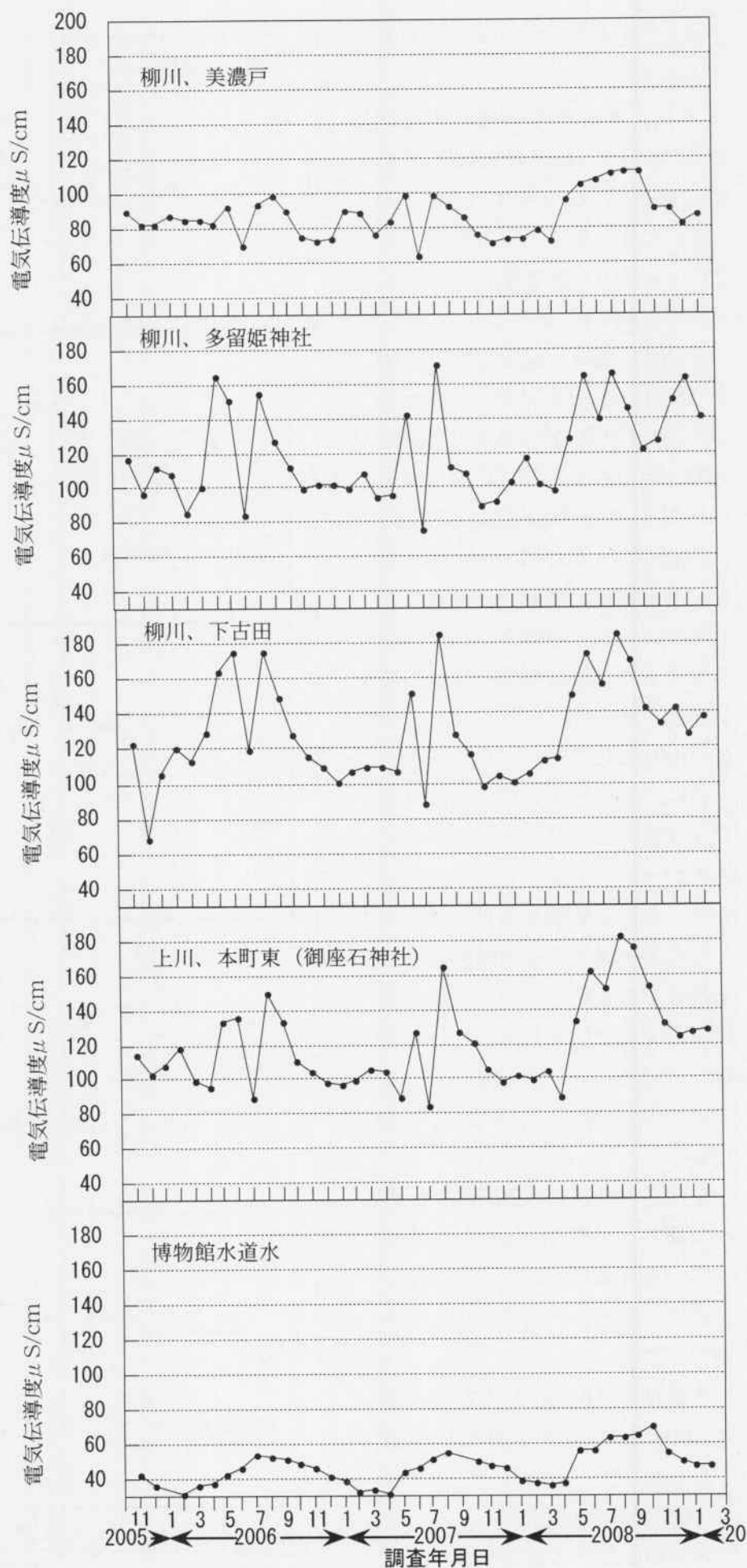


図5 柳川の電気伝導度の年変化

Ⅱ 市民による茅野市の河川の水生昆虫調査報告

当博物館「ふるさと講座」2008年度の「水環境を川虫で探る」講座の対象河川は、一般の方々対象では例年調査している柳川と新しく加えた茅野市横河川で行われた。子ども科学クラブは例年通りの音無川柏原で行われた。2008年の記録として残すためにここに報告しておく。

表1 柳川的环境要因

調査月日 2008. 5. 17

項目	地点	美濃戸	下古田
時間		13:25	14:55
天気		晴	晴
気温(℃)		15.0	21.3
水温(℃)		9.5	17.2
pH		6.8	7.7
電気伝導度 ($\mu\text{S}/\text{cm}$)		107.3	184.9

1 柳川の水生昆虫群集

(1) はじめに

2008年度も柳川では美濃戸と下古田で調査した。調査地点は図1に示した。また調査地点の景観は図2の左上に

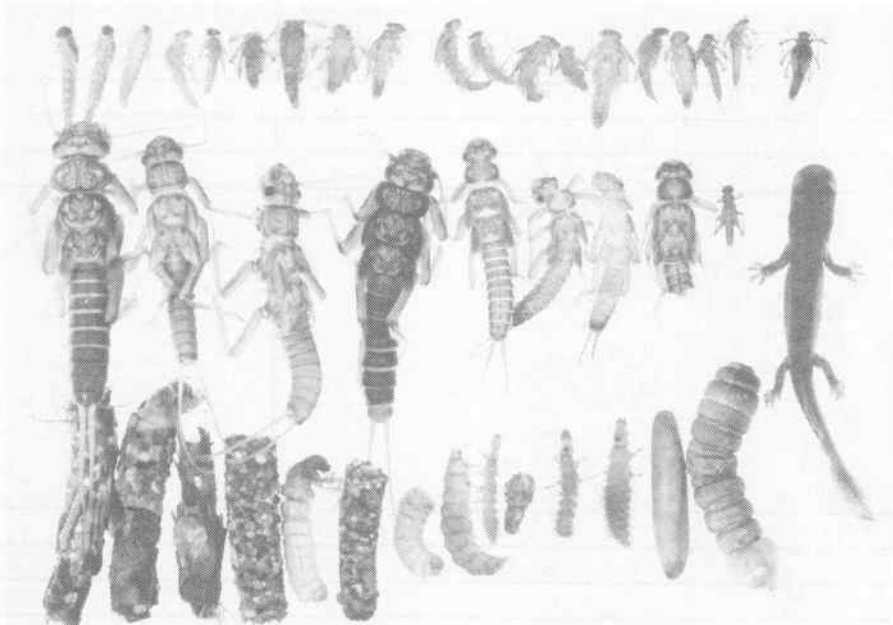


図6 柳川、美濃戸の水生昆虫

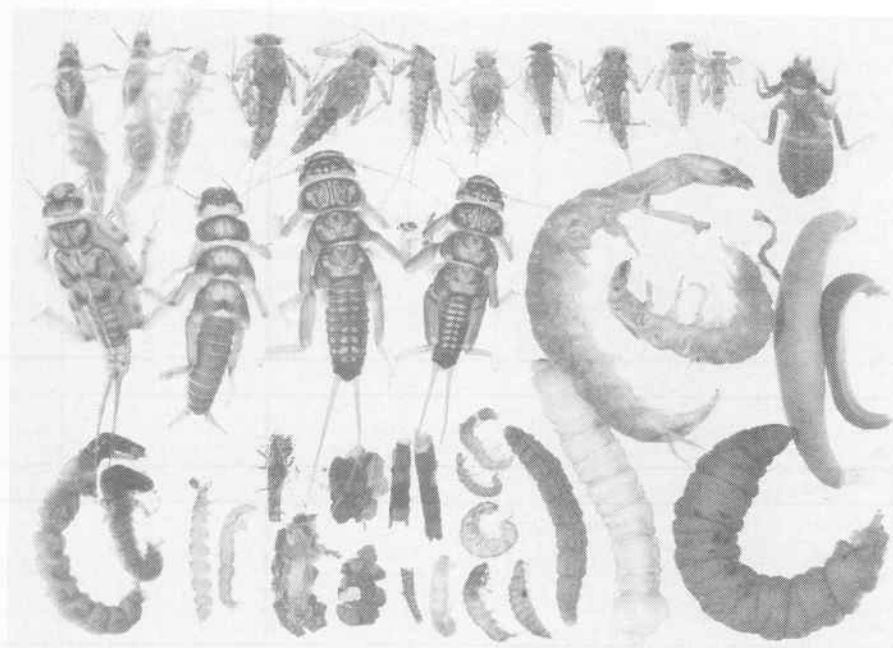


図7 柳川、下古田の水生昆虫

表2 柳川の水生昆虫

調査地点		柳川、美濃戸	柳川、下古田
調査月日		2008. 5. 17	2008. 5. 17
和名	学名		
カゲロウ目〔蜉蝣目〕			
ヒメフタオカゲロウ	Ameletus montanus	4	
マエグロヒメフタオカゲロウ	Ameletus costalis		1
チラカゲロウ	Isonychia japonica		2
ユミモンヒラタカゲロウ	Epeorus nipponicus	3	4
ウエノヒラタカゲロウ	Epeorus curvatulus		3
エルモンヒラタカゲロウ	Epeorus latifolium		2
ミヤマタニガワカゲロウ属一種	Cinygmula sp.	16	
コカゲロウ属数種	Baetis spp.	8	
フタマタマダラカゲロウ	Drunella bifurcata		18
クロマダラカゲロウ	Cincticostella nigra		10
アカマダラカゲロウ	Uracanthella punctisetae		3
トンボ目〔蜻蛉目〕			
ダビドサナエ	Davidius nanus		1
カワゲラ目〔せき翅目〕			
オビシタカワゲラ属一種	Obipteryx sp.	1	
フサオナシカワゲラ属一種	Amphinemura sp.	3	
コグサアミメカワゲラモドキ (コグサヒメカワゲラ)属数種	Ostrovus sp.	4	
ヒメカワゲラ属一種	Stavsolus sp.	2	1
オオアミメカワゲラ	Megarcys ochracea	5	
ヒメアミメカワゲラ	Skwala pusilla	7	
モンカワゲラ	Calineuria stigmatica	2	
セスジミドリカワゲラ属一種	Sweltsa sp.	3	
アミメカゲロウ目〔広翅目〕			
ヘビトンボ	Protohermes grandis		1
トビケラ目〔毛翅目〕			
ヒゲナガカワトビケラ	Stenopsyche marmorata		10
ウルマーシマトビケラ	Hydropsyche orientalis		3
コガタシマトビケラ	Cheumatopsyche brevilineata		1
キタガミトビケラ	Limnocentropus insolius		1
レゼイナガレトビケラ	Rhyacophila lezeyi	8	
ナガレトビケラ属一種	Rhyacophila sp.		2
ヤマトビケラ属一種	Glossosoma sp.		7
アツバエグリトビケラ属一種	Neophylax sp.	1	
オンダケトビケラ属一種	Pseudostenophylax sp.	4	
コエグリトビケラ属一種	Apatania sp.	1	
ヤマガタトビイロトビケラ	Nothopsyche yamagataensis	5	
カクツツトビケラ属一種	Lepidostoma sp.		1
ハエ目〔双翅目〕			
チビユラ属一種	Tipula sp. TB		3
エリオケラ属一種	Eriocera sp. EB	1	
その他			
ナミウズムシ	Dugesia japonica		1
シマイシビル	Erpobdella lineata		1
ミズムシ	Asellus hilgendorffii		12
ハコネサンショウウオ	Onychodactylus japonicus	1	
種 類 数 計		19	22
生物指数 (Beck-Tsuda法)		38	39

調査は2008年5月17日に、講座受講者2人と担当の茅野の3人で行った。採集方法は、津田の β 法、すなわち川を横断的にできるだけ多くの種を採集する定性的な方法で採集した。

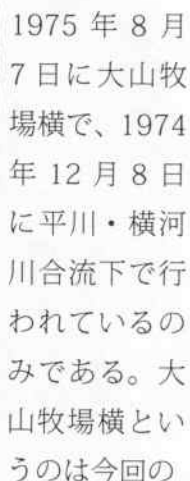
環境要因は表1に示した。水温は美濃戸で9.5℃と低かったが、下古田では17.2℃で約8℃の差があった。pHは美濃戸で6.8で7.0より小さかったが、下古田では7.7まで上がっていた。電気伝導度も美濃戸では107.3 μ S/cmであった。図5の一番上のグラフのように2006、2007は100 μ S/cmを超えることはなかったが、2008年6月からは、5ヶ月連続で100 μ S/cmを超えるようになってしまった。下古田では184.9 μ S/cmと大きな値を示した。毎年夏になるとこの地点ではこの位の値にまで上がっている。この付近では毎年6月下旬にはゲンジボタルがかなりの数発生するというのが電気伝導度でもそれを推測させる値であった。

美濃戸で採集された水生昆虫は図6に示し、その種名と参考までの捕獲数は表2に示した。

次に、下古田では 22 種が採れた。'07 年が 16 種、'08 年が 24 種であった。カワゲラは一種であった。毎年ナミイシビル、シマイシビル、ミズムシが採れている。田畑の水等の混入で恒常的に富栄養塩水が流れ、これらの底生動物が生息しているようである。

2 茅野市横河川の水生昆虫群集

茅野市横河川の水質調査は、諏訪教育会自然研究部陸水委員会で、



- 7 -

調査の高原線一の橋の近辺かと思われる。また平川・横河川合流下というのは今回の鋳物師屋上橋辺りではないかと思われる。横河川の水生昆虫についての調査は行われていない。

(2) 横河川的环境要因

大山牧場横地点での当時の pH は 6.6 と記録されている。今回は 6.8 であった。また電気伝導度は当時 $16.3 \mu\text{S/cm}$ と記録され、今回は $20.0 \mu\text{S/cm}$ であった。今回は当時よりやや高かったもののイオンの混入の少ない水であることには変わりない。素晴らしい水質が保たれている。

次に平川・横河川合流下では、当時 pH は 7.1、電気伝導度は $51.6 \mu\text{S/cm}$ である。今回は各 7.2 と $81.1 \mu\text{S/cm}$ であった。電気伝導度は当時よりかなり上がって多量のイオンの混入が推察される。

(3) 横河川の水生昆虫群集

横河川で採集された水生昆虫は図 11、12 に示し、その種名と参考までの捕獲数は表 4 に示した。

採集日が 8 月であるため多くの種が羽化して、卵期だったり極小さい幼虫であったりして網にかからないため種数は割合少なかった。高原線一の橋では 13 種、鋳物師屋上の橋では 17 種であった。高原線一の橋ではカゲロウ目やトビケラ目が少なかったため種数は伸びなかったが大型のカワゲラ目が個体数多く採れた。3、4、5 月頃に調査を行えば種数はかなり伸びることであろう。



図 10 茅野市横河川鋳物師屋上橋

図 11 茅野市横河川高原線一の橋

調査月日 2008. 8. 2

項目	地点	高原線一の橋	鋳物師屋上橋
時間		14:00	15:10
天気		晴	晴
気温(℃)		25.2	26.5
水温(℃)		13.8	18.0
pH		6.8	7.2
電気伝導度 ($\mu\text{S/cm}$)		20.0	81.1

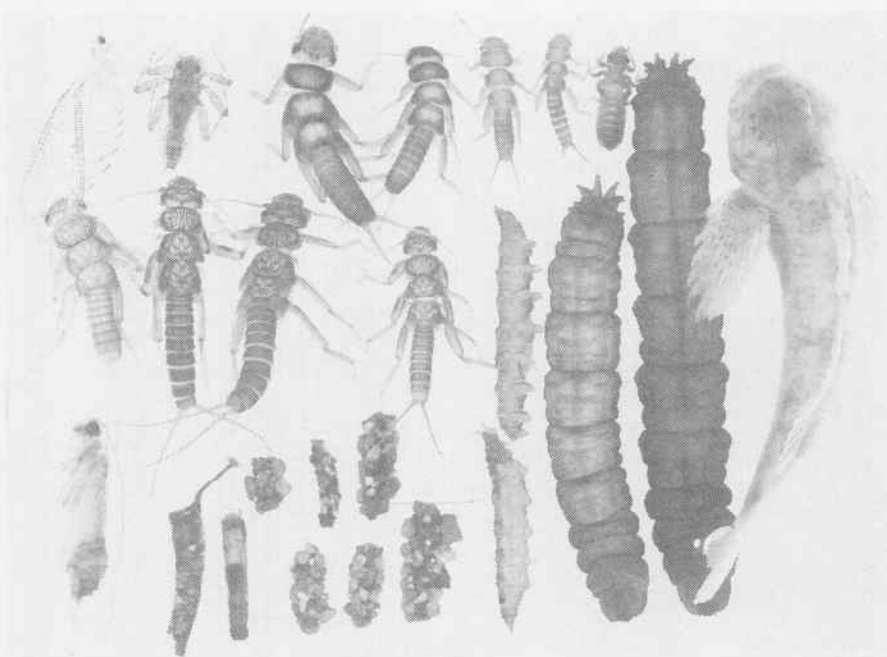


図 11 茅野市横河川高原線一の橋

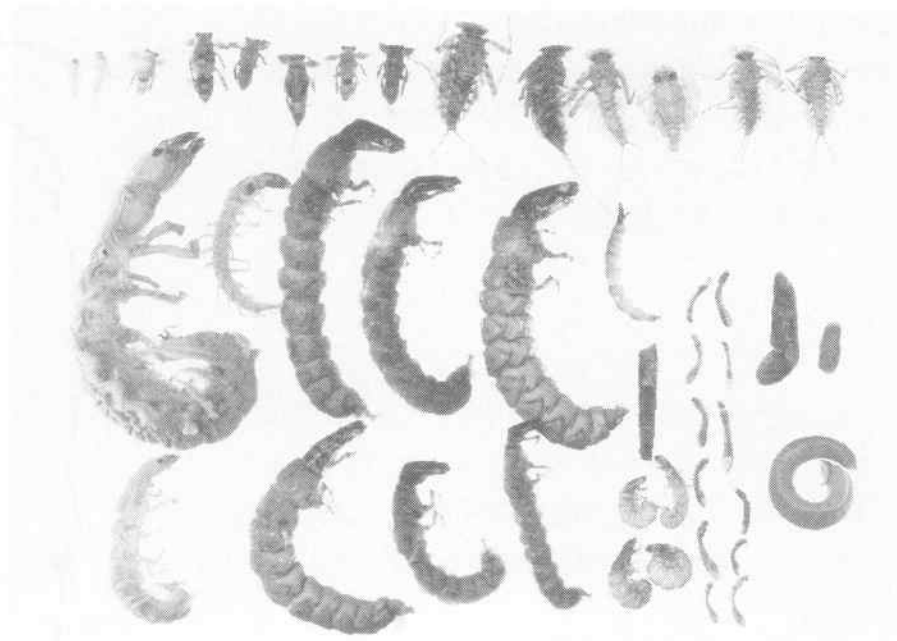


図 12 茅野市横河川鑄物師屋上橋

表 4 茅野市横河川の水生昆虫

調査地点		高原線一の橋	鑄物師屋上橋
調査月日		2008. 8. 2	2008. 8. 2
和名	学名		
カゲロウ目〔蜉蝣目〕			
ユミモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus nipponicus</i>	1	2
ウエノヒラタカゲロウ	<i>Epeorus curvatulus</i>		5
エルモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus latifolium</i>		2
コカゲロウ属一種	<i>Baetis</i> sp.		4
ヨシノマダラカゲロウ	<i>Drunella ishiyamana</i>		11
フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>	2	
トンボ目〔蜻蛉目〕			
ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>	1	
カワゲラ目〔せき翅目〕			
ヤマトカワゲラ	<i>Nipponiella limbatella</i>	3	1
クロヒゲカミムラカワゲラ	<i>Kamimuria quadrata</i>	3	
モンカワゲラ属一種	<i>Calineuria</i> sp.	11	
アミメカゲロウ目〔広翅目〕			
ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>		3
タイリククロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes continentalis</i>		1
トビケラ目〔毛翅目〕			
ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	1	12
ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>		8
キタガミトビケラ	<i>Limnacentropus insolius</i>	1	
ムナグロナガレトビケラ	<i>Rhyacophila nigrocephala</i>		1
タシタナガレトビケラ	<i>Rhyacophila impar</i>		1
ヤマトトビケラ属一種	<i>Glossosoma</i> sp.		2
アツバエグリトビケラ属一種	<i>Neophylax</i> sp.	6	
カクツツトビケラ属一種	<i>Lepidostoma</i> sp.	1	1
ハエ目〔双翅目〕			
チビユラ属一種	<i>Tipula</i> sp. TB	3	
ニッポンヤマブユ	<i>Simulium</i> sp.		67
ハマダラナガレアブ	<i>Atherix ibis</i>	3	
その他			
ミヤマウズムシ	<i>Phagocata vivida</i>		2
シマイシビル	<i>Erpobdella lineata</i>		1
カジカ	<i>Cottus kazika</i>	1	
種 類 数 計		13	17
生物指数 (Beck-Tsuda法)		26	33

鋳物師屋上橋ではカワゲラ目は少なかったが、カゲロウ目やトビケラ目の種数が多かった。特に個体数が多かったのはニッポンヤマブユであった。川の兩岸近くの川底からたくさん生えているパイカモにぎっしり付いていた。取ってきた一枝に69頭のニッポンヤマブユが数えられた。生物指数は33で貧腐水性水域である。

3 音無川の水生昆虫群集

(1) はじめに

2008年度の子ども科学クラブの「水環境を川虫で探る」は音無川柏原で行われた。参加した子どもたちは13人で保護者の方も11人川に入って採集された。実際の採集はほぼ1時間で終了した。調査地点は図13に示した。また調査地点の景観は図14に示した。

(2) 音無川的环境要因

音無川柏原の環境要因は表5に示した。快晴の天気のもとで行われた。気温は23.8℃水温も19.3℃と高かった。pHは7.2、電気伝導度も72.1 μ S/cmと比較的低い値であった。白樺湖下水処理場ができるまでは常に150 μ S/cmを超えていたのが今は信じられないほどの値である。

(3) 音無川の水生昆虫群集

音無川で採集された水生昆虫は図15に示し、その種名と参考までの捕獲数は表6に示した。

採集日が8月であるため多くの種が羽化してしまっていると思われるが、採集者の人数が多かったせいか29種に及んだ。カゲロウ目は6種でヒラタカゲロウ属が3種であった。特にユミモンヒラタカゲロウの個体数が多かった。マダラカゲロウは2種でヨシノマダラカゲロウが個体数多く採れた。カワゲラ目では十分成長した大型のクロヒゲカミムラカワゲラ、スズキクラカケカワゲラ、オオヤマカワゲラが採れた。8月のこの時期はまだ幼虫でいるとは、今年羽化できなかった個体であろうか？本地点にはアミメカゲロウ目のヘビ



図13 音無川柏原調査地点

表5 音無川柏原の環境要因

調査月日 2008.8.9		
項目	地点	柏原
時間		9:10
天気		快晴
気温(℃)		23.8
水温(℃)		19.3
pH		7.2
電気伝導度(μ S/cm)		72.1



図14 音無川柏原(子ども科学クラブ…親子での採集)

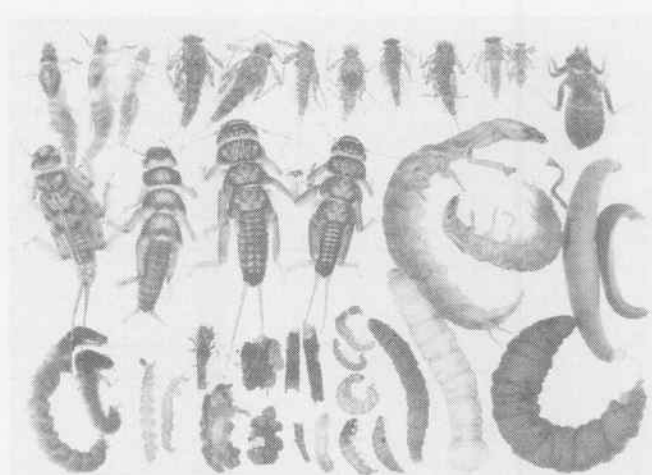


図15 音無川柏原

トンボが個体数多く生息している、毎年確実に記録されている。トビケラ目は、今年度は10種で、2006年の7種、2007年の5種と較べて多くの種が記録された。参加者が多かったせいだろうか。8月にこの地点に生息する種のほとんどが記録されたのではないだろうか。ハエ目・その他では特別変わった種や変化は見られなかった。

全種数29種、生物指数46で、素晴らしい水質が保たれていることがわかる。

参考文献

奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸宏・水野信彦・矢島稔・山岸哲 (1996) 川の生物図典、財団法人リバーフロント整備センター
川合禎次編 (1985) 日本産水生昆虫検索図説、東海大学出版会
川合禎次・谷田一三共編 (2005) 日本産水生昆虫、東海大学出版会
諏訪教育会 (1982) 諏訪の自然誌 陸水編・第VI章諏訪の河川・第2節上川水系・§6 桧沢川、諏訪教育会
茅野靖夫 (2004) 臼田町の水生昆虫、臼田町誌、臼田町
茅野靖夫・共著 (2004) 水生昆虫、長野県レッドデータブック動物編、長野県

茅野靖夫 (2007) 茅野市の河川の水生昆虫、茅野市八ヶ岳総合博物館紀要

茅野靖夫 (2008) 茅野市の河川の水生昆虫、茅野市八ヶ岳総合博物館紀要

津田松苗 (1962) 水生昆虫学、北隆館

津田松苗 (1972) 水質汚濁の生態学、公害対策技術同友会

鶴石 達 (2002) 準絶滅危惧種オオナガレトビケラ (*Himalopsyche japonica* Morton) の生態と長野県内における分布状況、塩尻市立蝶の博物館 紀要第5号

丸山博紀・高井幹夫 (2000) 原色川虫図鑑、全国農村教育協会

表6 音無川の水生昆虫

調査地点		柏原
調査月日		2008. 8. 9
和名	学名	
カゲロウ目〔蜉蝣目〕		
ユミモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus nipponicus</i>	18
ウエノヒラタカゲロウ	<i>Epeorus curvatulus</i>	2
エルモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus latifolium</i>	1
ヨシノマダラカゲロウ	<i>Drunella ishiyamana</i>	11
クシゲマダラカゲロウ	<i>Ephemerella setigera</i>	1
フタスジモンカゲロウ	<i>Ephemera japonica</i>	3
トンボ目〔蜻蛉目〕		
ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>	1
カワゲラ目〔せき翅目〕		
フサオナシカワゲラ属一種	<i>Amphinemura</i> sp.	1
モンオナシカワゲラ類縁種	<i>Amphinemura</i> (<i>megaloba</i>) sp.	1
クロヒゲカミムラカワゲラ	<i>Kamimuria quadrata</i>	2
スズキクラカケカワゲラ	<i>Paragnetina suzukii</i>	2
オオヤマカワゲラ	<i>Oyamia lugubris</i>	4
アミメカゲロウ目〔広翅目〕		
ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	4
トビケラ目〔毛翅目〕		
ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	3
ミヤマイトビケラ属一種	<i>Plectrocnemia</i> sp.	2
シロフツヤトビケラ	<i>Parapsyche maculata</i>	1
ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	4
ムナグロナガレトビケラ	<i>Rhyacophila nigrocephala</i>	2
ナガレトビケラ属一種	<i>Rhyacophila</i> sp.	3
ヤマトビケラ属一種	<i>Glossosoma</i> sp.	5
キタガミトビケラ	<i>Limnacentropus insolitus</i>	1
コエグリトビケラ属一種	<i>Apatania</i> sp.	1
カクツツトビケラ属一種	<i>Lepidostoma</i> sp.	5
ハエ目〔双翅目〕		
チビユラ属一種	<i>Tipula</i> sp. TB	1
エリオケラ属一種	<i>Eriocera</i> sp. EB	1
ミズアブ科一種	<i>Stratiomyidae</i> sp.	1
その他		
ミヤマウズムシ	<i>Phagocata vivida</i>	1
シマイシビル	<i>Erpobdella lineata</i>	1
マネビル	<i>Mimobdella japonica</i>	1
種 類 数 計		29
生物指数 (Beck-Tsuda法)		46

茅 野 靖 夫

Ⅲ ミヤマシロチョウ生息地における保護・保全活動について（経過報告）

宮下 りよ（茅野ミヤマシロチョウの会事務局）

ミヤマシロチョウ *Aporia hippia japonica* は明治 34 年に千野光茂（諏訪清陵高校初代校長）が茅野市（当時の諏訪郡明治温泉）で発見した高山チョウで、長野県を中心とする中部山岳地帯に局地的に生息している。環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に、長野県では天然記念物（昭和 50 年）及び特別指定希少野生動植物（平成 17 年）に指定されている。

八ヶ岳山麓の生息地においては、昭和 45 年から諏訪清陵高校生物部によりその生活史や生態について調査研究が行われており（理科研究集録、1982）、そのころから絶滅が危惧されていた。茅野市、富士見町、原村の三市町村では昭和 47 年 11 月に天然記念物に指定し、それぞれパトロール等の保護活動を行っていたが、保全対策は取られてこなかった。生息地は放置されてきたことにより森林化が進行しているが、幼虫の食樹であるヒロハヘビノボラズが多数古木となって残っているのが幸いである。

2006 年から日本チョウ類保全協会の呼びかけにより八ヶ岳のミヤマシロチョウの保全対策について関係者が集まり検討する機会が設けられた。『パトロールだけでは数年のうちに絶滅する可能性がある』という関係者の共通認識の下で、市民を中心とした保全活動のための団体を立ち上げることが課題となっていた。

そのような中で、福田勝男氏が発起人となり、趣旨に賛同する有志が集まり 2008 年 3 月、茅野市八ヶ岳総合博物館が事務局となり「茅野ミヤマシロチョウの会」が発足した。多くの方の賛同を頂き、2009 年 3 月末現在、会員数は約 70 名超となっている。活動が始まって 1 年足らずであるが、2008 年度の「茅野ミヤマシロチョウの会」による保護・保全活動の状況について、その経過を報告する。

1 保全区域の設定と保全活動

八ヶ岳山麓には数カ所のミヤマシロチョウの生息地があるが、茅野ミヤマシロチョウの会では、2008 年度には阿弥陀岳南陵の茅野市域 3,000㎡を財産区の協力を得て保全区域として設定し、保全活動を行ってきた。6 月には幼虫の食樹ヒロハヘビノボラズの古木の更新をめざした剪定作業を、10 月には成虫の飛翔空間を広げ、林床に光を取り込むことを目的とした森林の整備作業（樹木の除伐、枝払い、下草刈り）などを行った。

「茅野ミヤマシロチョウの会」では 2008 年度から 5 年の間に 13,000㎡から 15,000㎡を会の保全区域として設定し保全する計画である。2009 年度には 2008 年度の保全区域をさらに 3,000㎡増やし 6,000㎡とするほか、茅野市内の別の生息地にも保全区域を広げたいと考えている。



2 2008年度の活動概要

- 3月 2日 茅野ミヤマシロチョウの会 設立総会
- 4月 6日 学習会 環境問題について
- 12日 //
- 19日 2008年度保全対象区域（穴山立場沢）生態調査
- 5月 6日 観察会 早春のチョウ「ヒメギフチョウ」と対象区域内の生態調査
- 18日 学習会 保護・保全について

- 24日 //
- 6月 1日 ヒロハヘビノボラズの除伐作業
 (4日 日本チョウ類保全協会による八ヶ岳の調査に同行)
 8日 研修会 「北御牧のオオルリシジミを守る会」
 14日 観察会 幼虫と保全区域の生態観察
- 7月13日～8月5日 保護監視活動
 19日 ミヤマシロチョウ親子観察会
 20日 同上 会員観察会
 21日 同上 一般市民観察会
 26日 同上 子ども科学クラブ観察会
- 8月 2日 深山の妖精「ミヤマシロチョウ」 会報創刊号発行
 23日 『信州環境フェア』活動発表
- 9月14日 秋のチョウと生態観察 国の天然記念物「ヤマネ」観察
 20日 2009年度保護保全活動予定地の生態調査
- 10月 3日～17日 深山の妖精「ミヤマシロチョウ」活動写真展開催
 4日 保全活動 2008年度区域除伐と枝払い作業
 19日 高原の都市「エコフェスタ2008」発表参加
 26日 信濃生物会(高等学校生物担当教員の会)活動発表
- 11月15日 幼虫越冬巣の調査 12確認したが小屋左部は未調査
 (20日 日本チョウ類保全協会による八ヶ岳のミヤマシロチョウ調査同行)
 (15日の確認と未調査部・再発見 35確認)
- 1月31日 会報第2号発行、2008年度反省会

3 捕獲者のパトロールと観察

違法採取者に対するパトロールは保全区域を中心に生息地一体について行い、入山者にはミヤマシロチョウの写真入り注意書を配布し、捕獲が禁止されていることを伝えた。以下にパトロール時の観察記録について記す。成虫確認数は時間当たりに確認できた最大数で示している。

<阿弥陀岳南陵生息地>

- 7月 2日(水) 成虫未発生、蛹を探したが確認できず
 7月 9日(水) 成虫未発生
 7月13日(日) 成虫3頭(♂)を確認
 7月14日(月) 成虫4頭(♂)・吸水行動を確認
 7月15日(火) 成虫5頭(♂)を確認、川で成虫1頭の吸水を確認
 7月16日(水) 成虫3頭(♂♀)・バイカウツギで吸蜜を確認
 7月17日(木) 成虫5頭(♂♀)を確認、川で成虫5頭の吸水を確認
 7月18日(金) 成虫2頭・バイカウツギで吸蜜を確認
 7月19日(土) 成虫4頭・バイカウツギで吸蜜・求愛を確認、川で成虫4頭の吸水を確認(長野県に滅失届提出の上、死骸1頭を保存)
 7月20日(日) 成虫6頭・オドリコソウ・バイカウツギ・アザミで吸蜜を確認
 7月21日(月) 成虫8頭・バイカウツギで吸蜜、川で成虫2頭の吸水を確認
 7月22日(火) 成虫3頭・バイカウツギで吸蜜・産卵行動を確認
 7月23日(水) 成虫4頭(♂♀)・ノイバラで求愛を確認
 7月24日(木) 成虫4頭(♂♀)・イボタノキで交尾・1本で卵塊を確認
 7月25日(金) 成虫2頭・イボタノキとヤマハハコで吸蜜を確認
 7月26日(土) 成虫4頭・イボタノキとウツボグサで吸蜜
 7月27日(日) 成虫2頭(♂♀)・イボタノキで吸蜜・求愛を確認





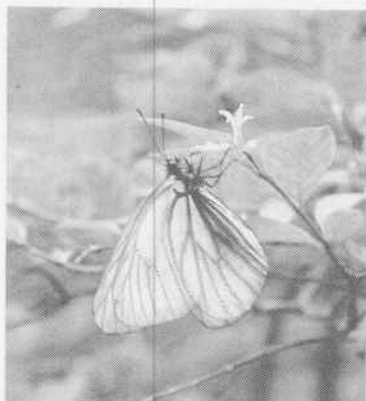
バイカウツギ (7/25)



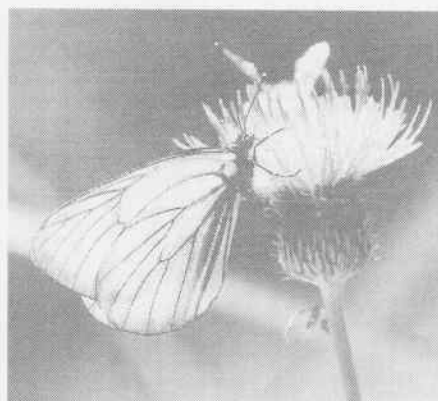
ヤマハハコ (7/25)



ウツボグサ (7/26)



イボタノキ (7/29)



アザミ (7/30)



クサフジ (8/2)

7月

8月

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 1 2 3 4 5 6 7 8

成虫の行動

吸水と吸蜜

求愛行動

産卵

孵化

カンボク?

バイカウツギ

イボタノキ

アザミ

ヤマハハコ

ウツボグサ、イブキジャコウソウ

クサフジ

吸蜜植物

成虫の活動と吸蜜植物の変化 (2008 年)

- 7月29日(火) 成虫5頭・イボタノキで吸蜜を確認
 7月30日(水) 成虫2頭(♀)・アザミで吸蜜・2本で産卵行動を確認
 7月31日(木) 成虫1頭(♀)・アザミ・クサフジで吸蜜を確認・1本で1卵塊を確認
 8月1日(金) 成虫3頭?(♂♀)・アザミ・イボタノキ・ヨツバヒヨドリで吸蜜・合計6カ所で卵塊を確認
 8月2日(土) 成虫1頭(♀)・ヒヨドリバナで吸蜜を確認
 8月3日(日) 成虫1頭(♀)・クサフジで吸蜜・卵塊1カ所を新たに確認(卵塊確認数は累計7ヶ所)、オオイチモンジ(♀)1頭を確認
 8月4日(月) 成虫1頭(♀)を確認、林道で成虫1頭を確認
 8月8日(金) 2カ所で1齢幼虫の孵化を確認。
 9月14日(日) 生態調査 2齢幼虫と巣の存在を確認
 11月15日(土) 越冬巣調査 越冬巣12個を確認
 (2008年度保全エリア(3個)、2009年度保全エリア(1個)、小屋上(3個)、2012年度保全予定エリア(4個)
 *後日、日本チョウ類保全協会との合同調査で最終的に35箇所の巣を確認

4 今年度の成果と反省

会の活動は始まったばかりで手探りの状態ではあるが、生息地の調査の結果、成虫の吸蜜植物が少ないことや飛翔空間が狭いことなどが問題であることなどがわかってきた。

2008年度は3,000㎡について幼虫の食樹であるヒロハヘビノボラズの剪定を行ったが、今後もこの保全範囲を広げていくことにより、産卵箇所や成虫飛翔数が増加することを期待している。

また、保全地では国の天然記念物であるヤマネ、長野県の天然記念物、希少野生動植物に指定されているオオイチモンジの生息が確認された。このような地道な活動を続けていくことにより、ミヤマシロチョウの個体数の増加をもたらすとともに、八ヶ岳山麓の生態系や生物多様性の保護にも貢献し、市民を始め、八ヶ岳を訪れる多くの方々に豊かな自然とこの優雅なチョウの乱舞を楽しんでいただきたいと考えている。

最後に、「茅野ミヤマシロチョウの会」の活動を熱心に支えてくださっている会員の皆様、会の活動を支援してくださっている企業の皆様、関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。



オオイチモンジ

【参考文献】

- 財団法人長野県諏訪清陵高等学校理科教育振興基金(1982) 理科研究集録「ミヤマシロチョウ」
 茅野市教育委員会(1973)「天然記念物“ミヤマシロチョウ”パトロール報告」
 茅野市教育委員会(1974～1978)「天然記念物“ミヤマシロチョウ”パトロール報告」
 三石暉弥(1988)「ミヤマシロチョウ」 文一総合出版

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
2000-001	国立博物館ニュース	第632号	皇室の名宝－美と伝統の精華－	東京国立博物館
2000-002	日本のあかり博物館館報	第3号	博物館ノート通巻No.52－北信濃に“ガス灯”が灯る	財団法人日本のあかり博物館
2000-003	港区立港郷土資料館だより	第40号	くさわれる展示室>オープン!	港区立港郷土資料館
2000-004	港区立港郷土資料館だより	第41号	「台場－内海御台場の構造と築造－」開催に向けて	港区立港郷土資料館
2000-005	港郷土資料館館報	No.17	平成10年度	港区立港郷土資料館
2000-006	みどりのこえ	No.11	研究所に期待すること	長野県自然保護研究所
2000-007	あなたと博物館	No.106	二千年の航海へいざ、出発じゃ	松本市立博物館・日本民俗資料館
2000-008	自然博物館だより	Vol.17 No.4	冬の護摩壇山	和歌山県立自然博物館
2000-009	和歌山県立自然博物館館報	第17号	平成10年度	和歌山県立自然博物館
2000-010	相模原市立博物館ニュース	Vol.17		相模原市立博物館
2000-011	水生昆虫の世界－水の中の小さな虫たち－			相模原市立博物館
2000-012	描かれた農耕の世界		秋季特別展	相模原市立博物館
2000-013	所さんの目がテン!		食べ物の不思議編	日本テレビ放送網株式会社
2000-015	美博だより	Vol.48	宝の箱	飯田市美術館
2000-016	たてはく	第31号	山岳映像イベント'99	富山県[立山博物館]
2000-017	博物館研究	Vol.34 No.12		(財)日本博物館協会
2000-018	長崎県の貝塚と遺跡－縄文時代のながさき－		平成11年度企画展	千葉県立加曽利貝塚博物館
2000-019	森の恵み(ビデオ)		森林は私たちにとって大切な財産なのです	(株)ブレック研究所 生態研究センター長 名古屋大学名誉教授 農学博士 只木良也 (監修) 森林の公益的機能拡充推進協議会 (栃木県・群馬県・山梨県・長野県・岐阜県・滋賀県・奈良県)
2000-020	風土の中の衣食住			市川健夫
2000-021	火山灰は語る－火山と平野の自然史－			町田洋
2000-022	日本のブナ帯文化			市川健夫 山本正三 斎藤功
2000-023	浜松市博物館報	第12号	1999.10	浜松市博物館
2000-024	浜松市博物館だより	Vol.18 No.1	浜松市博物館の歩み	浜松市博物館
2000-025	浜松市博物館だより	Vol.18 No.3	浜松市博物館の歩み	浜松市博物館
2000-026	近代の織物－遠州の織物の歴史－		博物館資料集9	浜松市博物館
2000-027	原色日本蛾類図鑑	(上)		江崎梯三 一色周知 六浦晃 井上寛 岡垣弘 緒方正美 黒子浩
2000-028	原色日本蛾類図鑑	(下)		江崎梯三 一色周知 六浦晃 井上寛 岡垣弘 緒方正美 黒子浩
2000-029	伊那谷の自然	第87号	ハナノキ湿地を守りたい!!	伊那谷自然友の会
2000-030	博物館実習報告	第15号	1999年度版	お茶の水女子大学学芸員課程委員会
2000-031	江戸近郊の鋳物師－谷保村関鋳物師の業績－		くにたち郷土文化館企画展	くにたち郷土文化館
2000-032	ハーモニー	No.28	庭に遊ぶ	兵庫県立人と自然の博物館
2000-033	図録 島崎藤村			藤村記念館
2000-034	うみんど[湖人]	第13号	收藏庫拝見－展示室の下に広がる世界－	滋賀県立琵琶湖博物館
2000-035	くにたち郷土文化館 研究紀要	第2号	地域社会における博物館活動	くにたち郷土文化館
2000-036	琵琶湖博物館 年報	第3号	平成10年度	滋賀県立琵琶湖博物館
2000-037	昭和のこどもたち		石井美千子人形作品集第3集	石井美千子 井上一撮影
2000-038	歴博	第98号	恋愛と性	国立歴史民俗博物館
2000-039	畿内の王権と古代の東国－野毛大塚古墳の時代－			世田谷区教育委員会
2000-040	畿内の王権と古代の東国－野毛大塚古墳の時代－(リーフレット)			世田谷区教育委員会

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
2000-041	国立博物館ニュース	第633号	オランダ王室知られざるロイヤル・コレクション	東京国立博物館
2000-042	博物館研究	Vol.35 No.1		(財)日本博物館協会
2000-043	博物館研究	Vol.35 No.2		(財)日本博物館協会
2000-044	街なか場末の大事件		チャレンジ江戸の古文書	吉田豊
2000-045	広報 創起庵	第2号	むれを見つめる見つける見なおす	むれ歴史ふれあい館
2000-046	葵	No.37	大名物 漢作茄子茶入	徳川美術館広報部
2000-047	山と博物館	第45巻第1号	新しい年	大町山岳博物館
2000-048	大磯町郷土資料館 年報		平成10年度	大磯町郷土資料館
2000-049	Museum Data	No.47	世界のミュージアムホームページ 現状調査レポート	湘丹青研究所 情報開発研究部
2000-050	戸隠村地質化石館だより	No.37	国道406号線の改修工事現場から、クジラの耳の骨の化石！	戸隠村地質化石館
2000-051	Report	18/19	大磯町郷土資料館だより	大磯町郷土資料館
2000-052	藤村記念館だより	第93号	年頭にあって	大脇修二
2000-053	国立博物館ニュース	第634号	文化財保護法50年記念 日本国宝展	東京国立博物館
2000-054	みどりのこえ	No.12	「新しい森林文化」を創ろう	長野県自然保護研究所
2000-055	牛久自然観察の森事業実施報告書		平成10年度 (1998)	牛久自然観察の森
2000-056	神奈川県立生命の星・地球博物館年報	第4号	1998年度	神奈川県立生命の星・地球博物館
2000-057	自然科学のとびら	Vol.5, No.4	珪化木	神奈川県立生命の星・地球博物館
2000-058	瑞浪市化石博物館研究報告	第26号		瑞浪市化石博物館
2000-059	石田収蔵-謎の人類学者の生涯と板橋-			板橋区立郷土資料館 小西雅徳
2000-060	山と博物館	第45巻第2号	静-自然からの感性-	大町山岳博物館
2000-061	ユネスコ世界遺産年報	2000 No.5	日光の社寺	社団法人日本ユネスコ協会連盟 村井了 立川義明
2000-062	宮大工諏訪の和四郎ノート			長野市誌編さん委員会
2000-063	市誌研究ながの	第七号		富士見町民話の会
2000-064	富士見高原の民話			清原伸一
2000-065	天下統一への道1 信長、立つ		週刊ビジュアル日本の歴史1	伊勢原市立子ども科学館
2000-066	子ども科学館ニュース	VOL.27	参加型ロボット競技会	諏訪教育会自然研究部 植物委員会
2000-067	諏訪の植物-身近に見られる植物を中心に-			中田易直 中田剛直 浅井潤子 浅見恵
2000-068	かな解読字典			林英夫 中田易直
2000-069	入門近世文書字典			吉田豊
2000-070	寺子屋式古文書手習い			藤本篤
2000-071	古文書入門-判読から解説へ-			吉田豊
2000-072	江戸かな古文書入門			(株)I.D.L.情報デザイン研究所
2000-073	Cultivate [カルチベイトー文化と環境を考える-]	No.11	大学総合博物館と文化環境	美簗青島区 赤木区虚空蔵菩薩保存会 中坪あゆみ研究委員会
2000-074	美簗青島の千社参り・西春近赤木の虚空蔵菩薩祭・手良中坪の祇園祭		伊那市内の民俗芸能(無形文化財)の記録 第五集	富県ふるさと館開館記念 伊那市歴史シンポジウム
2000-075	中世の伝説を語る-まほらいな市民大学-			伊那部宿を考える会 久保村覚人 吉澤政己
2000-076	平成10年度 平成11年度 伊那部宿総合調査報告書			野尻湖の発掘8 発掘報告/第13次野尻湖発掘・第8回野尻湖陸上発掘
2000-077	野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告	第8号		野尻湖ナウマンゾウ博物館
2000-078	野尻湖ナウマンゾウ博物館だより	No.54	戸隠村にはクジラがいたんだって！	野尻湖ナウマンゾウ博物館
2000-079	松本市文書館だより	第5号		松本市文書館
2000-080	東京都江戸東京博物館研究報告	第5号	「不思議」を楽しむ-江戸のメディアと俗信-	東京都江戸東京博物館 都市歴史研究室
2000-081	現代日本朝日人物事典		(備品)	朝日新聞社
2000-082	朝日日本歴史人物事典			朝日新聞社
2000-083	原色牧野植物大図鑑 続編		(備品)	牧野富太郎
2000-084	原色園芸植物図鑑		(備品)	本田正次 林弥栄 古里和夫
2000-085	下関市史・民俗編			下関市市史編修委員会
2000-086	歴博	第99号	集団と個人	国立歴史民俗博物館
2000-087	北方民族博物館だより	第36号	アザラシ胃製容器	北海道立北方民族博物

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
				館
2000-088	神の魚・サケ		北方民族と日本	北海道立北方民族博物館
2000-089	北海道立北方民族博物館研究紀要	第8号	1999	北海道立北方民族博物館
2000-090	北海道立北方民族博物館 年報	平成9年度		北海道立北方民族博物館
2000-091	A. V. スモリャーク氏寄贈資料目録～ニブブ・オロチ・ウリチ・ナーナイ～		北海道立北方民族博物館資料目録2	北海道立北方民族博物館
2000-092	アイヌ語弁論大会報告書	第3回	アイヌ語でイタカン ロー	(財)アイヌ文化振興・研究推進機構
2000-093	香川県歴史博物館 NEWS	Vol. 1	開館記念号	香川県歴史博物館
2000-094	箱根やすらぎの森フィールドガイド	No.1		箱根町立森のふれあい館
2000-095	箱根やすらぎの森フィールドガイド	No.2		箱根町立森のふれあい館
2000-096	箱根やすらぎの森フィールドガイド	No.3		箱根町立森のふれあい館
2000-097	箱根やすらぎの森フィールドガイド	No.4		箱根町立森のふれあい館
2000-098	箱根やすらぎの森フィールドガイド	No.5		箱根町立森のふれあい館
2000-099	貝塚博物館紀要	第27号	2000年3月	千葉県立加曽利貝塚博物館
2000-100	伊那谷自然史論集	Vol. 1		飯田市美術博物館
2000-101	人と自然	第10号		兵庫県立人と自然の博物館
2000-102	日本産貝類－菊池コレクション－		兵庫県立人と自然の博物館収蔵資料目録 第3集	兵庫県立人と自然の博物館 生態研究部
2000-103	師岡平遺跡		平成8・9・10年度県営圃場整備事業古田地区に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	茅野市教育委員会
2000-104	美術館だより THE TATSUNO MUSEUM OF ART	第15号	天野惣平	辰野美術館
2000-105	天下統一への道2 本能寺、燃ゆ		週刊ビジュアル日本の歴史2	清原伸一
2000-106	子ども科学館ニュース	VOL. 24	国際宇宙ステーション	伊勢原市立子ども科学館
2000-107	窪田空穂記念館だより 創刊号			窪田空穂記念館
2000-108	あなたと博物館	No.107	春が訪れ、雛の季節に	松本市立博物館・日本民俗資料館
2000-109	子ども科学館ニュース	VOL. 28	おかえりなさい スペースシャトルエンデバー号&毛利宇宙飛行士	伊勢原市立子ども科学館
2000-110	JOCウラン加工施設における臨海事故と環境への影響について		ニュースレター第2報	科学技術庁原子力局原子力調査室
2000-111	THEORIA コクヨミュージアムレポート テオリア	Vol. 8	作品に生命を吹き込む展示とは	
2000-112	美術館系文化施設の情報システムに関する調査			(財)地域創造
2000-113	岡崎市美術館年報			岡崎市美術館
2000-114	江戸東京たてもの園だより	第12号	たてもの園見てあるき	財団法人東京都歴史文化財団
2000-115	ふくいミュージアム	No.33		福井県立博物館
2000-116	下関の弥生時代－近年の発掘成果から－		平成10年度企画展	下関市立考古博物館
2000-117	自然博物館だより	Vol. 16 No.3		和歌山県立自然博物館
2000-118	Museum Works	Vol. 6	法隆寺灌頂幡復元模造	株式会社京都科学ミュージアムワークス編集室
2000-119	HOSHINO Resort Letter	Vol. 32	軽井沢に咲く春の絨毯秘話	株式会社星野リゾート
2000-120	三葉虫の世界～出現・繁栄から絶滅まで～展示目録		1999年度信州新町化石博物館特別展	信州新町化石博物館
2000-121	総社市埋蔵文化財調査年報	9	平成10年度	総社市教育委員会
2000-122	資料館だより	第18号	成清雨乞い踊り	各務原市歴史民俗資料館
2000-123	信州新町化石博物館研究報告	第2号		信州新町化石博物館
2000-124	民具で見る各務原のくらし～生業編～		各務原市資料調査報告書第24号	各務原市歴史民俗資料館

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
2000-125	出開帳ー聖地と人との結縁システム		第2回特別展示	厚木市郷土資料館
2000-126	郷土博物館だより	No.57	郷土学習展「暮らしの中の民具」開催	調布市郷土博物館
2000-127	伊那谷の自然	第88号	急流河川のダムに提言	伊那谷自然友の会
2000-128	地鳴り山鳴り		民衆のたたかい300年	国立歴史民俗博物館
2000-129	日本のあかり博物館館報	第4号	博物館ノート通巻No.53ーわら馬が火を防ぐ	財団法人日本のあかり博物館
2000-130	国立博物館ニュース	第635号	文化財保護法50年記念 日本国宝展	東京国立博物館
2000-131	神奈川県立歴史博物館だより	Vol.5 No.3		神奈川県立歴史博物館
2000-132	和田傳生誕100年記念 和田家の文書ー歴史を伝える資料ー		第6回收蔵資料展	厚木市郷土資料館
2000-133	かすかべの宝ものⅡ展示案内ー江戸時代の暮らしと文化ー		第20回特別展（収蔵品展）	春日部市郷土資料館
2000-134	神奈川県立歴史博物館年報		平成10年度	神奈川県立歴史博物館
2000-135	マンガで学ぶ情報用語ー知る知る見知るー			科学技術振興事業団科学技術情報事業本部専務理事宇津野宏二
2000-136	長野県の遺跡発掘1999ー県内各地、近年の発掘調査と出土品ー		長野県埋蔵文化財センター企画展	(財)長野県埋蔵文化財センター 長野県立歴史館
2000-137	自然博物館だより	Vol.18 No.1	橋杭岩	和歌山県立自然博物館
2000-138	山と博物館	第45巻第3号	光と山	大町山岳博物館
2000-139	信濃の風土と歴史	6	衣ーあむ・おる・きるー	長野県立歴史館
2000-140	長野県立歴史館だより	春号 Vol.22		長野県立歴史館
2000-141	長野県立歴史館研究紀要	第6号		長野県立歴史館
2000-142	Science Ranger NEWS	No.8	サイエンス・レンジャー75名新規登録	科学技術振興事業団科学技術理解増進室
2000-143	調布の文化財	第27号	おらんだ焼物の世界ー上ヶ給遺跡第40地点の調査よりー	調布市郷土博物館
2000-144	博物館研究	Vol.35 No.3		(財)日本博物館協会
2000-145	美博だより	VOL.49	旧友も熟す	飯田市美術博物館
2000-146	遠藤重二郎氏文書目録	(1)	春日部郷土資料館資料目録第3集	春日部市郷土資料館
2000-147	遠藤重二郎氏文書目録	(2)	春日部郷土資料館資料目録第4集	春日部市郷土資料館
2000-148	江戸東京博物館NEWS	Vol.29	企画展「葵 徳川三代」展	東京都江戸東京博物館
2000-149	館報	第7号	1999.3	春日部市郷土資料館
2000-150	石川れきはく	No.54	新収蔵品展	石川県立歴史博物館
2000-151	石川れきはく	No.55	加賀藩士ー百万石の侍たちー	石川県立歴史博物館
2000-152	礒山美術館報	第20号	少女踊	(財)礒山美術館
2000-153	礒山美術館	Vol.10	礒山の鐘	(財)礒山美術館
2000-154	一茶ゆかりの里通信	No.6		一茶ゆかりの里
2000-155	富士吉田市歴史民俗博物館だより [MARUBI]	No.14	富士吉田あれこれ	富士吉田市歴史民俗博物館
2000-156	千葉県立中央博物館10年のあゆみ		平成11年3月	千葉県立中央博物館
2000-157	千葉県立中央博物館要覧		平成11年度	千葉県立中央博物館
2000-158	千葉県立中央博物館年報	11	平成10年度版	千葉県立中央博物館
2000-159	中央博物館だより	No.44	学校教育と博物館の新しい連携の試み	千葉県立中央博物館
2000-160	相模原市立博物館ニュース	Vol.18		相模原市立博物館
2000-161	原久之助生誕500年祭記念誌			原久之助生誕500年祭実行委員会
2000-162	MUSEUM STUDY	11	1999明治大学学芸員養成課程紀要	明治大学学芸員養成課程
2000-163	MUSEOLOGIST	15	1999明治大学学芸員養成課程年報	明治大学学芸員養成課程
2000-164	蘇れ！古代の夢とロマンー見て触れて作って遊ぼう博物館ー		平成11年度親しむ博物館づくり事業報告	上田市立信濃国分寺資料館
2000-165	戸隠村地質化石館だより	No.38	土砂災害を調べる！	戸隠村地質化石館
2000-166	紀要	第2号	1999	塩尻市立蝶の博物館
2000-167	継体大王の時代		尾張古代史セミナー(4)	春日井市教育委員会文化財課
2000-168	堀ノ内遺跡発掘調査概要報告書		平成11年度堀ノ内特定土地地区画整理事業に伴う事前調査	春日井市教育委員会
2000-169	世田谷区史料叢書	第15巻	世田谷代官大場家文書金銭出入帳編三	世田谷区立郷土資料館
2000-169	Museum Data	No.48	1999年度全国博物館園アンケート調査結果報告<概要調査編>	㈱丹青研究所 情報開発研究部

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
2000-170	長野市立博物館だより	第50号	中越の庚申講用具一式	長野市立博物館
2000-171	長野市立博物館 年報	Vol. 13	平成6年度～10年度	長野市立博物館
2000-172	うみんど〔湖人〕	第14号	水族館展示の裏話―「魚は友だち」	滋賀県立琵琶湖博物館
2000-174	うみっこ	第7号	フナズシ大研究	滋賀県立琵琶湖博物館 「うみっこ」編集委員会
2000-175	魚類標本	3	琵琶湖博物館資料目録3号	滋賀県立琵琶湖博物館
2000-176	うみんど〔湖人〕	第15号	湖の魚・漁・食―淡海あれこれ商店街―	滋賀県立琵琶湖博物館
2000-177	山と博物館	第45巻第4号	ミズバショウ	大町山岳博物館
2000-178	国立博物館ニュース	第636号	雲中供養菩薩像	東京国立博物館
2000-179	ハーモニー	No.29	石と遊ぶ	兵庫県立人と自然の博物館
2000-180	藤村記念館だより	第94号	企画展特集号	大脇修二
2000-181	長野県立歴史館だより	夏号Vol. 23	千曲川歴史紀行	長野県立歴史館
2000-182	研究紀要	第5号		東京学芸大学生涯教育研究室
2000-183	地図資料目録Ⅱ 一般図・主題図・地形図		相模原市立博物館資料目録	相模原市立博物館
2000-184	まつどミュージアム	No.8	松戸市立博物館所蔵の自然史標本資料	松戸市立博物館
2000-185	松戸市立博物館紀要	第7号		松戸市立博物館
2000-186	学芸員NEWS LETTER	第12号		立命館大学文学部NEWS LETTER編集委員会
2000-187	東京都板橋区松月院境内遺跡(写真図版編)		文化財シリーズ第86集(CD-ROM付)	板橋区教育委員会生涯学習課文化財係
2000-188	陸平通信	第Ⅱ期24号	2000年に陸平で先人の知恵に学べ!	美浦村教育委員会生涯学習課
2000-189	相模原市立博物館研究報告	第9集		相模原市立博物館
2000-190	鳳来寺山の仏法僧一鳥と人の自然誌―			鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館
2000-191	鳳来寺山自然科学博物館 館報	第29号		鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館
2000-192	維新の三傑特別展展示目録			憲政記念館
2000-193	一宮市博物館博物館だより	No.25		一宮市博物館
2000-194	一宮市博物館博物館だより	No.26		一宮市博物館
2000-195	第12回「平和のための信州戦争展」諏訪会場まとめ集		明日のための忘れてはならない過去があります 証言・記録集 核兵器も戦争も基地もない21世紀を	第12回「平和のための信州戦争展」諏訪地方実行委員会
2000-196	にいくら	No.5	跡見学園女子大学花隈記念資料館学芸員課程	跡見学園女子大学花隈記念資料館・学芸員課程
2000-197	博物館研究	Vol. 35 No.4		(財)日本博物館協会
2000-198	HOSHINO Resort Letter	Vol. 33	森の移り変わりをみつめるノウサギの目	株式会社星野リゾート
2000-199	下関市立考古博物館年報	5	平成11年度	下関市立考古博物館
2000-200	研究紀要	第4号	2000	下関市立考古博物館
2000-201	山と博物館	第45巻第5号	薫	大町山岳博物館
2000-202	あやらぎ	No.4	やよい絵画展作品募集!	下関市立考古博物館
2000-203	葵	No.38	綾杉地獅子牡丹葵紋蒔絵貝桶	徳川美術館広報部
2000-204	松本市文書館だより	第6号		松本市文書館
2000-205	須坂市立博物館だより	第3号	善光寺地震と須坂藩の対応	須坂市立博物館
2000-206	みどりのこえ	No.13	先住野性動物と共生する山人の知恵	長野県自然保護研究所
2000-207	松河戸遺跡―安賀地区発掘調査の概要―			春日井市教育委員会
2000-208	江戸東京たてもの園だより	第15号	昭和30年代東京のくらし	財団法人東京都歴史文化財団
2000-209	あなたと博物館	No.108	山を愛する写真家たち	松本市立博物館・日本民俗資料館
2000-210	諏訪の農業		豊かな自然と環境を生かした諏訪地方の農業・水産業の紹介	諏訪農業改良普及センター
2000-211	平塚市博物館年報	第23号	平成10年度	平塚市博物館
2000-212	自然と文化	No.23	平塚市博物館研究報告	平塚市博物館
2000-213	平塚の遺跡 旧石器・縄文・弥生・古墳時代編		ガイドブック17	平塚市博物館
2000-214	博物館研究	Vol. 35 No.5		(財)日本博物館協会
2000-215	文化資料館調査研究報告	8	2000	茅ヶ崎市文化資料館

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
2000-216	放課後博物館へようこそ		地域と市民を結ぶ博物館	浜口哲一（平塚市博物館）
2000-217	改訂版 長野県の文化財		長野県文化財総合目録（平成11年3月31日現在）	（財）八十二文化財団 長野県教育委員会監修
2000-218	神奈川県立自然保護センター報告	第17号	平成12年	神奈川県立自然保護センター
2000-219	日本大学生物資源科学部資料館報	第9号	1999	日本大学生物資源科学部資料館
2000-220	平成11年度埋蔵文化財緊急発掘調査概要		吉志部遺跡 垂水遺跡 高城B遺跡 高畑遺跡 高城遺跡 吉志部古墳	吹田市教育委員会
2000-221	吹田市文化財ニュース	No.21	吉志部古墳で発掘調査を実施！	吹田市立博物館
2000-222	千葉県立中央博物館分館海の博物館ニュースレター いそっぴ通信		平成10・11年度版	千葉県立中央博物館分館海の博物館
2000-223	天然記念物平松のウツクシマツ自生地保護増殖事業報告書		平成11年度	甲西町教育委員会
2000-224	三郷文化	第72号		三郷村教育委員会
2000-225	国立博物館ニュース	第637号	開創950年記念 国宝平等院展	東京国立博物館
2000-226	新田B遺跡		大田区民休養村及び校外施設建設用地内発掘調査報告書	東部町遺跡発掘調査団
2000-227	真行寺遺跡群		県道建設用地内緊急発掘調査概要報告書	東部町遺跡発掘調査団
2000-228	舞台遺跡 西五町遺跡		東部高校グラウンド拡張用地内緊急発掘調査報告書	東部町遺跡発掘調査団
2000-229	東部町の古墳文化		二子塚古墳出土玉類	東部町教育委員会
2000-230	発掘調査・15年の歩みと成果		昭和58年度～平成9年度発掘調査概要	東部町教育委員会・東部町遺跡発掘調査団
2000-231	伊那谷の自然	第89号	環境ストレスが生態系をおびやかす	伊那谷自然友の会
2000-232	自然科学のとびら	Vol. 6, No.1	イレズミコンニャクアジ	神奈川県立生命の星・地球博物館
2000-233	神奈川県立博物館研究報告 自然科学	第29号		神奈川県立生命の星・地球博物館
2000-234	神奈川自然誌資料 第21号	第29号		神奈川県立生命の星・地球博物館
2000-235	民俗資料選集	28	盆行事IV	文化庁文化財保護部
2000-236	信州大学理学部付属諏訪臨湖実験所報告	第12号		信州大学理学部付属諏訪臨湖実験所
2000-237	DAGIAN（ダジアン）	No.36	川	株式会社アゲイン
2000-238	小川町の歴史 資料編4 近世I			小川町
2000-239	東京都高尾自然科学博物館研究報告	第19号		東京都高尾自然科学博物館
2000-240	東京都の自然	第26号		東京都高尾自然科学博物館
2000-240	味美二子山古墳の時代	第三分冊		春日井市
2000-241	村人の祈りと集いの場～お堂の役割を探る～		第45回特別展	長野市立博物館
2000-242	長野市立博物館だより	第51号	手作り団扇の完成だよ！！	長野市立博物館
2000-243	知られざる極東ロシアの自然ーヒグマ・シベリアトラの大地を旅するー		平成12年度特別展解説書	倉西良一 小田島高之
2000-244	房総ロマン紀行ー写真で見る産業・交通遺跡ー		文化財保護法50年記念 第8回千葉県立美術館・博物館合同企画展	第8回千葉県立美術館・博物館合同企画展「房総ロマン紀行」運営委員会
2000-245	相模原市立博物館ニュース	Vol. 20	幕末・維新の相模原	相模原市立博物館
2000-246	文書館収蔵資料とその活用		平成11年度松本市文書館講座	総務部行政管理課松本市文書館
2000-247	松本市史研究ー松本市文書館紀要ー	第10号		松本市総務部行政管理課松本市文書館
2000-248	松本市文書館資料目録	第2集		松本市総務部行政管理課松本市文書館
2000-249	松本市文書館史料 第一集ー『御用留』ー			松本市総務部行政管理課松本市文書館
2000-250	博物館研究	Vol. 35 No.7	（財）日本博物館協会会長就任にあたって	（財）日本博物館協会
2000-251	風土がはぐくんだ信濃の和紙		第44回特別展 文化財保護法50周年記念	長野市立博物館

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
2000-252	長野市立博物館 年報	Vol. 12	平成5年度	長野市立博物館
2000-253	長野市立博物館 年報	Vol. 14	平成11年度	長野市立博物館
2000-254	富士山登山案内図		富士吉田市歴史民俗博物館企画展 図録	富士吉田市歴史民俗博 物館
2000-255	秦野の石仏-北・東地区-	(三)	秦野市文化財調査報告書2	秦野市教育委員会生涯 学習課
2000-256	写真集 みのわ 一時は移りてー		箕輪町発足四十周年記念誌	箕輪町教育委員会
2000-257	HOSHINO Resort Letter	Vol. 34	厳しい季節の備える森の生き物た ち	株式会社星野リゾート
2000-258	Museum Works	Vol. 7	ISO9001認証取得!	株式会社京都科学ミュー ジウムワークス編集 室
2000-259	生物多様性センター ニュース レター	創刊号	創刊号です。よろしく!	環境庁自然保護局生物 多様性センター
2000-260	山と博物館	第45巻第8号	「緑」それは心のオアシスだ	大町山岳博物館
2000-261	神奈川県立歴史博物館年報		平成11年度	神奈川県立歴史博物館
2000-262	神奈川県立歴史博物館だより	Vol. 6 No.1		神奈川県立歴史博物館
2000-263	国立博物館ニュース	第640号	世界四大文明 エジプト文明展	東京国立博物館
2000-264	年報 2000			松本市立博物館・日本 民俗資料館
2000-265	博物館研究	Vol. 35 No.8	地方博物館の35年	(財)日本博物館協会
2000-266	飯田市美術博物館研究紀要	第10号	2000	飯田市美術博物館
2000-267	飯田市美術博物館飯田市上郷考 古博物館年報	第9号	平成10年度	飯田市美術博物館
2000-267	秦野の古墳		平成11年度特別展	秦野市立桜土手古墳展 示館
2000-268	秦野市立桜土手古墳展示館だより	Vol. 18	縄紋	秦野市立桜土手古墳展 示館
2000-269	秦野市立桜土手古墳展示館研究 紀要	第1号		秦野市立桜土手古墳展 示館
2000-270	秦野の文化財	第36集	2000. 3	秦野市教育委員会生涯 学習課
2000-271	神奈川県秦野市桜土手古墳群の 調査(第二次)			桜土手古墳群第二次発 掘調査団
2000-272	天下統一と城			国立歴史民俗博物館
2000-273	歴博	第100号	世紀末	国立歴史民俗博物館
2000-274	地域文化	No.53	信州と海	(財)八十二文化財団
2000-275	藤村記念館だより	第95号		大脇修二
2000-276	アンモナイトの世界～白亜紀の 海にすんでいたアンモナイト～ ガイドブック		2000年度信州新町化石博物館特別 展	信州新町化石博物館 成田建
2000-277	信州新町化石博物館研究報告	第3号		信州新町化石博物館
2000-278	伝統の朝顔Ⅲー作り手の世界ー			国立歴史民俗博物館
2000-279	オランダへわたった大工道具			国立歴史民俗博物館
2000-280	松本まるごと博物館構想			松本市教育委員会文化 課 松本市立博物館
2000-281	国立博物館ニュース	第639号	世界四大文明 エジプト文明展	東京国立博物館
2000-282	台場ー内海御台場の構造と築造 ー			東京都港区教育委員会 (港区立港郷土資料 館)
2000-283	港区文化財調査集録	第5集	2000	港区教育委員会
2000-284	飯田市美術博物館文書目録	[V]	大河原 前島家	飯田市美術博物館
2000-285	想像力の散歩ー映像で語る北原 功写真集ー			北原功
2000-286	大津歴博だより	No.40	開館10周年記念企画展20世紀のお もちゃー北原照久コレクションー	大津市歴史博物館
2000-287	みどりのこえ	No.14	棚田は自然の原点	長野県自然保護研究所
2000-288	長野県自然保護研究所年報	第4号	1999年度	長野県自然保護研究所
2000-289	長野県自然保護研究所紀要	第3巻		長野県自然保護研究所
2000-290	伝統の朝顔Ⅱー芽生えから開花 までー			国立歴史民俗博物館
2000-291	北の島の縄文人ー海を越えた文 化交流ー			国立歴史民俗博物館
2000-292	浜松市博物館情報	第98号～第100号	新しい博物館をめざして	浜松市博物館
2000-293	浜松市博物館だより	Vol. 19 No.1	博物館の風景ー木漏れ日、または 雨ー	浜松市博物館
2000-294	野尻湖ナウマンゾウ博物館だよ り	No.55	第14次野尻湖発掘が行われました	野尻湖ナウマンゾウ博 物館
2000-295	野尻湖ナウマンゾウ博物館だよ	No.56	斑尾山の自然	野尻湖ナウマンゾウ博

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
	り			物館
2000-296	芽ばえをさがそうー写真ガイドー		生態園観察ノートNo.8	大野啓一（環境科学研究所）
2000-297	中央博物館だより	No.45	植物画の世界	千葉県立中央博物館
2000-298	千葉県立中央博物館要覧		平成12年度	千葉県立中央博物館
2000-299	相模原市立博物館ニュース	Vol.19	植物画ってなんだろう？	相模原市立博物館
2000-300	信州高島藩諏訪家廟所			諏訪市教育委員会
2000-301	江戸東京博物館要覧	2000		東京都江戸東京博物館
2000-302	広報 創起庵	第3号	むれを見つめる見つける見なおす	むれ歴史ふれあい館
2000-303	伊那谷の自然	第90号		伊那谷自然友の会
2000-304	長岡市立科学博物館研究報告	第35号		長岡市立科学博物館（山屋茂人）
2000-305	NKH（長岡市立科学博物館報）	No.76	生物研究発表・少年少女青空科学教室特集号	長岡市立科学博物館
2000-306	NKH（長岡市立科学博物館報）	No.77	長岡市周辺産出の化石特集	長岡市立科学博物館
2000-307	地球を征服した昆虫		2000年特別展	山屋茂人
2000-308	ガイドブック 信濃川			長岡市立科学博物館
2000-309	歴博	第101号	学問	国立歴史民俗博物館
2000-310	北海道立北方民族博物館研究紀要	第9号	2000	北海道立北方民族博物館
2000-311	北方民族博物館だより	第38号	ハマツアの仮面	北海道立北方民族博物館
2000-312	トーテムポールとサケの人びとー北西海岸インディアンの森と海の世界ー		第15回特別展	北海道立北方民族博物館
2000-313	ハケ岳火山ーその生いたちを探るー			ハケ岳団体研究グループ
2000-314	藤村記念館文庫目録			藤村記念郷 理事長島崎緑二
2000-315	藤村記念館五十年誌			藤村記念郷（編集委員：佐々木禪了 蜂谷宜彦 牧野式子 鈴木定子）
2000-316	藤村記念館講演集		藤村没後五十年記念	藤村記念郷（編集委員：島崎緑二 蜂谷宜彦 安藤茂良 大脇修二 牧野式子）
2000-317	特別展 いたばし動物ものがたりー自然・狩猟・見世物ー			板橋区立郷土資料館 吉田政博
2000-318	中央博物館だより	No.46	知られざる極東ロシアの自然	千葉県立中央博物館
2000-319	博物館研究	Vol.35 No.6	教育改革の流れと博物館	（財）日本博物館協会
2000-320	国立博物館ニュース	第638号		東京国立博物館
2000-321	石川れきはく	No.56	祝い絵ーディスプレイの民俗誌ー	石川県立歴史博物館
2000-322	ハーモニー	No.30	鳥をみる	兵庫県立人と自然の博物館
2000-323	日本のあかり博物館館報	第5号	博物館ノート通巻No.54 油峠ー大笹街道鳥居峠ー	財団法人日本のあかり博物館
2000-324	板碑展 出土板碑・遺物がかたる中世板橋			板橋区立郷土資料館
2000-325	江戸東京博物館NEWS	Vol.30	文化財保護法50年記念 発掘された日本列島2000	東京都江戸東京博物館
2000-326	子ども科学館ニュース	VOL.29	ロボットと人間が友達に…	伊勢原市立子ども科学館
2000-327	北海道立北方民族博物館 年報	平成10年度		北海道立北方民族博物館
2000-328	民族資料目録1～平成元年度・2年度収集資料～		北海道立北方民族博物館資料目録3	北海道立北方民族博物館
2000-329	民族資料目録2～平成3・4・5・6年度収集資料～		北海道立北方民族博物館資料目録4	北海道立北方民族博物館
2000-330	兵庫県立人と自然の博物館 館報	vol.8	1999	兵庫県立人と自然の博物館
2000-331	浜松市博物館だより	Vol.19 No.2	博物館の風景～桜の木の下に埋まる古墳～	浜松市博物館
2000-332	浜松市博物館情報	第101号～第102号	新しい博物館をめざして	浜松市博物館
2000-333	松本市文書館だより	第7号		松本市文書館
2000-334	東国の国府ー発掘された古代の役所ー			上田市立信濃国分寺資料館
2000-335	江戸東京博物館NEWS	Vol.31	都営地下鉄大江戸線両国駅（江戸	東京都江戸東京博物館

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
			東京博物館前) 開業!	
2000-336	自然科学のとびら	Vol. 6, No.3	ササラダニ	神奈川県立生命の星・地球博物館
2000-337	博物館と遊ぼう!		ぼくとわたしの博物館ガイドブック	福島県立博物館
2000-338	長野県立歴史館たより	秋号 Vol. 24		長野県立歴史館
2000-339	調布の文化財	第28号	市内最大・最古の旧石器時代の遺跡発見!	調布市郷土博物館
2000-340	板橋区立郷土資料館年報	第13号	平成11年度	板橋区立郷土資料館
2000-341	博物館研究	Vol. 35 No.9	これからの地方博物館—現状と課題—	(財)日本博物館協会
2000-342	博物館研究	Vol. 35 No.10	開館40周年を迎えた大阪市立博物館と新博物館	(財)日本博物館協会
2000-343	絵図・地図いろいろ	II	第21回特別展	春日部市郷土資料館
2000-344	江戸東京たてももの園だより	第16号	家は自分で作るもの	財団法人東京都歴史文化財団
2000-345	地域文化	No.54	黄金色のとき「米」	(財)八十二文化財団
2000-346	大津歴博だより	No.41	開館10周年記念事業のお知らせ	大津市歴史博物館
2000-347	すみとも Sumitomo Magazine	秋号	泉屋博古館に行く	中原研究室
2000-348	企画展 戦後松戸の生活革新～新しい暮らし方へのあこがれ～			松戸市立博物館
2000-349	年内神事次第旧記			武井正弘
2000-350	信濃中世の館跡—開発と支配の拠点—		信濃史学会研究叢書 5	信濃史学会
2000-351	江戸前の海民		—芝・金杉浦の記憶—	木下達文
2000-352	浅草寺 仏教文化講座 第44集			塩入亮乗
2000-353	美術館だより THE TATSUNO MUSEUM OF ART	第17号	北澤一伯	辰野美術館
2000-354	天理参考館報	第13号	1999年度	天理大学付属天理参考館
2000-355	国立博物館ニュース	第642号	中国国宝展	東京国立博物館
2000-356	仲町遺跡		マイタウンまつしま整備事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	箕輪町教育委員会
2000-357	通り町遺跡 旭町遺跡		平成10・11年度県単街路事業(箕輪町仲町)に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	箕輪町教育委員会
2000-358	本城遺跡		平成10年度箕輪町社会福祉施設建設事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	箕輪町教育委員会
2000-359	企画展 まちづくり奮戦記—くにたち文教地区 指定とその後—			くにたち郷土文化館
2000-360	赤松小三郎 松平忠厚—維新変革前後 異才二人の生涯—			上田市立博物館
2000-361	広報 創起庵 号外 明治天皇の幸礼巡幸		むれ歴史ふれあい館企画展	むれ歴史ふれあい館
2000-362	世田谷区立郷土資料館 資料館だより	No.32	—資料紹介—石井至毅書写本『公事方御定書』	世田谷区立郷土資料館
2000-363	世田谷区立郷土資料館 資料館だより	No.33	特別展 記憶の中の風景—写真で見る世田谷の昭和30年代と今—	世田谷区立郷土資料館
2000-364	うみんど [湖人]	第16号	展示室をもっともっと使おう!	滋賀県立琵琶湖博物館
2000-365	北方民族博物館だより	第39号	石製トーテムポール模型	北海道立北方民族博物館
2000-366	あなたと博物館	No.111	郷土玩具展	松本市立博物館・日本民俗資料館
2000-367	記憶の中の風景—写真で見る世田谷の昭和30年代—		平成12年度特別展図録	世田谷区立郷土資料館
2000-368	ワークショップ&シンポジウム 博物館を評価する視点		琵琶湖博物館研究調査報告17号	琵琶湖博物館・滋賀県博物館ネットワーク協議会
2000-369	富士吉田市歴史民俗博物館だより [MARUBI]	No.15	富士山の物忌と暮らし	富士吉田市歴史民俗博物館
2000-370	山と博物館	第45巻第10号	秋空の下で	大町山岳博物館
2000-371	みどりのこえ	No.15	生き生きと暮らす人々と豊かな自然	長野県自然保護研究所
2000-372	小田原市郷土文化館研究報告	No.36	自然科学 No. 18	小田原市郷土文化館
2000-373	Museum Data	No.50	1999年度開設博物館情報	榑丹青研究所 情報開発研究部
2000-374	秋季展示 信濃で文字が使われ			飯田市上郷考古博物館

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
	始めた頃ー律令時代の文字事情ー			
2000-375	自然博物館だより	Vol.18 No.3	スランプ褶曲	和歌山県立自然博物館
2000-376	日本のあかり博物館館報	第6号	博物館ノート通巻No.55 菜種油の現在ー米沢製油の油づくりー	財団法人日本のあかり博物館
2000-377	美博だより	VOL.51	和太鼓の木地師	飯田市美術博物館
2000-378	ハーモニー	No.31	石をみる	兵庫県立人と自然の博物館
2000-379	山と博物館	第45巻第9号	清流に泳ぐ	大町山岳博物館
2000-380	歴博	第102号	海と川	国立歴史民俗博物館
2000-381	国立博物館ニュース	第641号	菩薩立像	東京国立博物館
2000-382	特別展 須坂の甍			須坂市立博物館
2000-383	石川れきはく	No.57	若山荘を歩く	石川県立歴史博物館
2000-384	港区立港郷土資料館だより	第42号	今に伝わる町場の文化サロンー矢崎家所蔵資料の世界ー	港区立港郷土資料館
2000-385	港区指定文化財	平成11年度	平成11年10月12日指定	港区教育委員会文化財課文化財係
2000-386	Museum Data	No.49	美術館と町づくり	瀬丹青研究所 情報開発研究部
2000-387	山と博物館	第45巻第7号	企画展「山川勇一郎の世界ー山岳風景と中国の風物ー」	大町山岳博物館
2000-388	美博だより	VOL.50		飯田市美術博物館
2000-389	豊科近代美術館館報	第8号	平成11年度	豊科近代美術館
2000-390	戸隠村地質化石館だより	No.39	クジラ	戸隠村地質化石館
2000-391	卓抜と均等 教育と博物館がもつ公共性の様相		1992年米国博物館協会報告書	(財)日本博物館協会
2000-392	郷土博物館だより	No.58	映画の町・調布 「東洋のハリウッド」と呼ばれるまでに	調布市郷土博物館
2000-393	千曲川歴史紀行ーともに生きた人びとの記録ー		平成12年度夏季企画展	長野県立歴史館
2000-394	自然科学のとびら	Vol.6, No.2	ニホンザルの新生児	神奈川県立生命の星・地球博物館
2000-395	文環研レポート	第14号		(株)文化環境研究所
2000-396	富士見町博物館だより	第6号	縄文の女神 三姉妹	富士見町教育委員会
2000-397	Science Ranger NEWS	No.9	サイエンス・レンジャー172名	科学技術振興事業団科学技術理解増進部
2000-398	浜松市博物館情報	第95号～第97号	新しい博物館をめざして	浜松市博物館
2000-399	浜松市博物館だより	Vol.18 No.4	施設・設備から見る浜松市博物館の歩み	浜松市博物館
2000-400	北方民族博物館だより	第37号	サケ皮製靴	北海道立北方民族博物館
2000-401	企画展 板橋職人新世紀ー板橋に活きる伝統的技術ー		第3回板橋区伝統工芸展	板橋区立郷土資料館
2000-402	山と博物館	第45巻第6号	暖ーTさんと白鳥との交流ー	大町山岳博物館
2000-403	自然博物館だより	Vol.18 No.2	白良浜	和歌山県立自然博物館
2000-404	中谷宇吉郎 雪の科学館 通信	第7号	生誕100年を祝う取り組み	中谷宇吉郎雪の科学館
2000-405	Cultivate [カルチベイトー文化と環境を考えるー]	No.12	ユニバーサル・ミュージアムと文化環境	(株)I.D.L. 情報デザイン研究所
2000-406	田無地方史研究会紀要	X X		田無地方史研究会
2000-407	DAGIAN (ダジアン)	No.6	大気	株式会社アゲイン
2000-408	DAGIAN (ダジアン)	No.11	竹	株式会社アゲイン
2000-409	DAGIAN (ダジアン)	No.12	麦	株式会社アゲイン
2000-410	DAGIAN (ダジアン)	No.13	くじら	株式会社アゲイン
2000-411	DAGIAN (ダジアン)	No.18	鮭	株式会社アゲイン
2000-412	DAGIAN (ダジアン)	No.19	陽	株式会社アゲイン
2000-413	DAGIAN (ダジアン)	No.20	樹	株式会社アゲイン
2000-414	DAGIAN (ダジアン)	No.21 特別号	宇宙	株式会社アゲイン
2000-415	DAGIAN (ダジアン)	No.22	渚	株式会社アゲイン
2000-416	DAGIAN (ダジアン)	No.23	蟻	株式会社アゲイン
2000-417	DAGIAN (ダジアン)	No.24	氷	株式会社アゲイン
2000-418	DAGIAN (ダジアン)	No.25	草	株式会社アゲイン
2000-419	DAGIAN (ダジアン)	No.26	雉	株式会社アゲイン
2000-420	DAGIAN (ダジアン)	No.27	星	株式会社アゲイン
2000-421	DAGIAN (ダジアン)	No.28	実	株式会社アゲイン
2000-422	DAGIAN (ダジアン)	No.29	鰯	株式会社アゲイン
2000-423	DAGIAN (ダジアン)	No.30	雷	株式会社アゲイン
2000-424	DAGIAN (ダジアン)	No.31	滝	株式会社アゲイン
2000-425	DAGIAN (ダジアン)	No.32	米	株式会社アゲイン
2000-426	DAGIAN (ダジアン)	No.33	炭	株式会社アゲイン

受領・購入図書目録 2000年度

受付No.	書名・雑誌名	巻・号	副題・特集	著者・編者
2000-427	DAGIAN (ダジアン)	No.34	蛍	株式会社アゲイン
2000-428	DAGIAN (ダジアン)	No.35	雪	株式会社アゲイン
2000-429	DAGIAN (ダジアン)	No.37	月	株式会社アゲイン
2000-430	伊勢原市立子ども科学館年報		平成12年版	伊勢原市立子ども科学館
2000-431	三郷文化	第73号		三郷村教育委員会
2000-432	三郷文化	第74号		三郷村教育委員会
2000-433	あなたと博物館	No.109	素朴な祈りのかたち	松本市立博物館・日本民俗資料館
2000-434	あなたと博物館	No.110	秦の始皇帝と兵馬俑展	松本市立博物館・日本民俗資料館
2000-435	国立博物館ニュース	第643号	中国国宝展	東京国立博物館
2000-436	伊那谷の自然	第92号	流水が村を襲う	伊那谷自然友の会
2000-437	博物館研究	Vol.35 No.11		(財)日本博物館協会
2000-438	歴博	第103号	民族	国立歴史民俗博物館
2000-439	神奈川県立歴史博物館だより	Vol.6 No.2		神奈川県立歴史博物館
2000-440	自然史博物館だより	No.35	吉原ゾウムシコレクション	倉敷市立自然史博物館
2000-441	自然史博物館だより	No.36	日本の鉱山から産出した鉱物	倉敷市立自然史博物館
2000-442	自然史博物館だより	No.37	自然観察的道楽生活のススメ	倉敷市立自然史博物館
2000-443	自然史博物館だより	No.38	平田昆虫コレクション	倉敷市立自然史博物館
2000-444	自然史博物館だより	No.39	自然界における金の産出状態	倉敷市立自然史博物館
2000-445	倉敷市立自然史博物館研究報告	第15号	2000	倉敷市立自然史博物館
2000-446	倉敷市立自然史博物館報	8	平成9～10年度	倉敷市立自然史博物館
2000-447	備讃瀬戸海底産出の脊椎動物化石ー山本コレクション調査報告書Ⅱー		倉敷市立自然史博物館収蔵資料目録 第9号	倉敷市立自然史博物館
2000-448	HOSHINO Resort Letter	Vol.35	冬の森を暖める小さな命の火	株式会社星野リゾート
2000-449	跡見花蹊 秋の名品展		平成12年度企画展	跡見学園女子大学花蹊記念資料館
2000-450	継体王朝 日本古代史の謎に挑む		第7回春日井シンポジウム	森浩一 門脇慎二
2000-451	山と博物館	第45巻第11号	冬の訪れ	大町山岳博物館
2000-452	うみっこ	第8号	冬の水鳥大研究	滋賀県立琵琶湖博物館「うみっこ」編集委員会
2000-453	さらしなの里「友の会」だより	第2号	春も美しい	さらしなの里友の会事務局
2000-454	さらしなの里「友の会」だより	第3号	てっぺんに神さん	さらしなの里友の会事務局
2000-455	子ども科学館ニュース	VOL.30	I T っていうけれど	伊勢原市立子ども科学館
2000-456	美術館だより THE TATSUNO MUSEUM OF ART	第16号	木村仁	辰野美術館
2000-457	葵	No.39	国宝 紫式部日記絵巻	徳川美術館広報部
2000-458	Science Ranger NEWS	No.10	「科学実験ものづくりメニュー掲載のための新キット」開発者決定	科学技術振興事業団科学技術理解増進部
2000-459	大祝ー諏訪の現人神ー		開館十周年記念 第二十八回企画展	諏訪市博物館
2000-460	春季展示 発掘された飯田の原始・古代ー近年の発掘調査からー			飯田市上郷考古博物館
2000-461	千曲川左岸の人びとの歴史		第5回企画展更埴の遺跡と遺物シリーズ2	更埴市森將軍塚古墳館
2000-462	守矢文書にみる武田氏の諏訪郡代		収蔵品展	茅野市神長官守矢史料館
2000-463	陸平通信	第Ⅱ期25号	おかだいら in Summer	美浦村教育委員会生涯学習課
2000-464	Science Ranger NEWS	No.7	サイエンス・レンジャー2000年	科学技術振興事業団科学技術理解増進部
2000-465	松本市文書館だより	第8号		松本市文書館
2000-466	浜松市博物館情報	第91号～第94号	新しい博物館をめざして	浜松市博物館

平成20年度 茅野市八ヶ岳総合博物館・八ヶ岳麓文芸館事業報告

1 入館者数(平成20年4月1日～平成21年3月31日) 13,613人

19年度 14,235人(前年対比622人減)

減少の要因:企画展「八ヶ岳の川と水の中の生きもの」写真展「写真でふりかえる茅野市の50年」の集客力の低さ、夏休み「楽しい工作」参加者減、ミュージアムコンサート聴衆減

2 企画展

(1) 企画展 「八ヶ岳の川と水の中の生きもの」

5月31日(土)～7月13日(日) 入館者 1,467人

八ヶ岳の雨水・湧水は川となり、生きものを育み、諏訪湖に注いでいます。この企画展では、柳川・滝の湯川を中心に、そこに生息する珪藻・水生昆虫・魚類・鳥類について標本や写真、図版で展示しました。

川の中の生き物展示は、八ヶ岳生き物シリーズでは初めてのことでしたが、来館者はあまりのびませんでした。広報不足もあったかと思われます。

① 展示解説 6月8日、7月6日 解説…館長 茅野靖夫

② 講演会 6月21日 講演…珪藻：浜篤 飯島敏雄 水質：森川一成 水生昆虫：茅野靖夫
参加者 19人

(2) 写真展 茅野市制施行50周年記念写真展「写真でふりかえる茅野市の50年」

7月26日(土)～9月28日(日) 入館者数 3,225人

茅野市の50年を、写真を中心に振り返りました。50年以上前の写真も展示しましたので、家族で語り合う楽しい展示となりました。

(3) 写真展「深山の妖精 ミヤマシロチョウ」(茅野ミヤマシロチョウの会と共催)

10月3日(金)～10月17日(金) 入館者 599人

昨年3月に設立された「茅野ミヤマシロチョウの会」の会員が活動時に撮影したミヤマシロチョウを中心としたチョウや植物の写真を展示しました。

(4) 研究・創意工夫展 (市内小中学校 研究・工作・絵画展)

10月25日(土)～11月24日(月) 入館者 1,597人

市内小中学校 10校参加の作品展。出品数 257点

① 工作・絵画部門

- | | |
|---------|--|
| ○茅野市長賞 | 小島由大 (豊平小学校2年) スイミーのタペストリー |
| ○教育委員会賞 | 百瀬翔、牛山大輔、上条雄大、寺島可威人 (永明小学校ふれあい学級)
たのしい大玉おくり |
| ○博物館長賞 | 鈴木沙苗 (米沢小学校3年) 虫 |
| ○審査員特別賞 | 原田愛琉奈 (玉川小学校2年)
ザリガニさんと川でいっぱいあそんで楽しいな |
| 〃 | 原 皐月 (湖東小学校6年) 茅野市と蓼科高原 |
| 〃 | 羽間光司 (宮川小学校6年) 木のぬくもりのあるポスト |

② 研究部門

- | | |
|---------|------------------------------|
| ○茅野市長賞 | 宮部 涼 (永明小学校4年) ビタミンCが多いのはどれ? |
| ○教育委員会賞 | 小平紗耶加 (湖東小学校3年) 水性ペンの本当の色は? |
| ○博物館長賞 | 柳澤卓弥 (北部中学校1年) 食品の色を確かめる研究 |



市制施行五〇周年記念写真展



活動発表展



元旦の餅つき



カルタ大会

- 審査員特別賞 伊藤安美 (永明小学校3年) 手の汚れとバイキン
 " 竹村祐太郎 (米沢小学校5年) 「僕らの森」を守りたい!!

3 岳麓文芸館企画展

(1) 企画展「小平雪人と諏訪の俳人たち」 9月13日(土)～平成21年3月1日
 入館者数 6,088人

諏訪地方を代表する俳人雪人の50回忌にあたり、雪人の俳人としての軌跡を中心にしながら、俳句を支持した人々、民衆にとって俳句はいかなる意味を持っていたかを探りました。

- ① 展示解説 10月26日(日) 解説…博物館職員 伊藤俊彦
 ② 講演会 11月22日(木) 講演…俳人 原天明さん、伊藤俊彦 参加者 66人

4 小泉山元旦登山、元旦博物館まつり

1月1日 入館者 315人

- (1) 百人一首・カルタ大会
- (2) マジックショー
- (3) お楽しみ抽選会
- (4) 博物館手作り味噌によるすいとんの振る舞い
- (5) つきたておもちの振る舞い
- (6) 子ども向けアニメ上映
- (7) 大風揚げ
- (8) 絵手紙作り実演

5 ふるさと講座 参加者 126人

(1) 水環境を川虫で探る

① 水環境と川虫(講義) 5月11日(日) 講師: 茅野靖夫(館長) 参加者 6人

② 柳川 現地調査 美濃戸、下古田 5月17日(月)
 講師: 茅野靖夫(館長) 参加者 6人

③ 茅野市横河川 現地調査 一の橋、米沢台 8月2日(土)
 講師: 茅野靖夫(館長) 参加者 2人

(2) 赤彦文学散歩 5月24日(土)

講師: 博物館職員 伊藤俊彦 参加者 20人

(3) 養川のせぎを訪ねて～滝之湯せぎ～ 6月8日(日)



滝之湯せぎを訪ねて



凍み豆腐作り

- 講師：小平智博さん 参加者 15 人
 (4) 北八ヶ岳自然観察会 7月26日(土)
 講師：白鳥保美さん 参加者 29 人
 (5) 毎日寒天!!～寒天料理・プロのレシピ 10月18日
 講師 両角和哉さん(かんでん茶房「きれい」)
 参加者 24 人

- (6) 凍み豆腐 1月24日(土) 25日(日)
 講師 仙石喜一さん 参加者 24 人

6 ロビー体験コーナー 参加者 411 人

- (1) さきおり 4月から翌年3月まで毎月第2土・日曜日 計24回 定員10人
 指導：博物館ボランティア会員 参加者 196 人
 (2) 布ぞうり作り 4月20日(日)
 講師：平沢治さん 小沢勝さん 参加者 20 人
 (3) 竹細工～花かご～ 5月18日(日)
 指導：竹松安治さん 参加者 19 人
 (4) 自由に木工 6月22日(日)
 指導：中村くすみさん 参加者 11 人
 (5) 夏休み楽しい工作
 カラフル竹トンボ 8月5日(火)
 指導：小倉信一さん 参加者 12 人
 ぼんぼん蒸気 8月6日(水)
 指導：山田善興さん 参加者 13 人
 針金細工 8月7日(木)
 指導：宮崎剛さん 参加者 12 人
 ネイチャークラフト 8月8日(金)
 指導：岡野勇二さん 参加者 12 人
 さきおりでランチョンマット 8月9日(土)・8月10日(日)
 指導：ボランティア会員 参加者 20 人
 (6) 竹細工～大きめのびく～ 9月7日(日)
 指導：竹松安治さん 参加者 20 人
 (7) つる細工～かご～ 11月15日(土)
 指導：両角源美(前教育長)さん 参加者 18 人
 (8) 花炭作り 11月23日(日)
 指導：岡野勇二さん 参加者 16 人
 (9) しめ飾り作り 11月30日(日)
 指導：平沢治さん、平沢利重さん 参加者 27 人
 (10) ひな人形作り 1月25日(日)
 指導：大久保久子さん 参加者 15 人
 (11) 植物や昆虫を点描で描いてみよう 2月21日(土)・22日(日)
 指導：茅野靖夫(博物館館長) 参加者 36 人
 (12) 博物館活動発表展 3月7日(土)～3月29日(日) 参加者 929 人



花かご作り
 布ぞうり作り



7	館・学連携事業	参加者	411人		
(1)	フレッシュマンゼミナール 解説：館長 茅野靖夫	東京理科大	4月17日(木)	17人	
(2)	フレッシュマンゼミナール 解説：館長 茅野靖夫	東京理科大	4月22日(火)	22人	
(3)	フレッシュマンゼミナール 解説：館職員 小林深志	東京理科大	5月13日(火)	12人	
(4)	フレッシュマンゼミナール 解説：館長 茅野靖夫	東京理科大	5月22日(木)	15人	
(5)	フレッシュマンゼミナール 解説：館職員 小林深志	東京理科大	6月24日(火)	14人	
(6)	総合的な学習 さきおり 指導：ボランティア会員	茅野高校	4月23日(水)	10人	
(8)	総合的な学習 点描画 指導：館長 茅野靖夫	茅野高校	6月11日(水)	10人	
(9)	総合的な学習 さきおり 指導：ボランティア会員	茅野高校	9月10日(水)	9人	
(11)	総合的な学習 木工 指導：中村くすみさん	茅野高校	10月15日(水)	10人	
(12)	総合的な学習 点描画 指導：館長 茅野靖夫	茅野高校	11月12日(水)	9人	
8	博物館活用指定学級 & 博物館利用学級	29回	参加数	1372人	
(1)	5月21日 北部中学校 『八ヶ岳の岩石・自然』	2年 134名	講師：小林深志、春日純一		
(2)	6月11日 泉野小学校 『養川せぎと昔の暮らし』	4年 23名	講師：春日純一		
(3)	9月25日 宮川小学校 『養川せぎと昔の暮らし』	4年 62名	講師：春日純一 茅野靖夫		
(4)	9月26日 宮川小学校 『養川せぎと昔の暮らし』	4年 62名	講師：春日純一 茅野靖夫		
(5)	10月8日 永明小学校 『養川せぎの現地見学』	4年 29名	講師：春日純一		
(6)	10月16日 永明小学校 『養川せぎの現地見学』	4年 31名	講師：茅野靖夫		
(7)	10月24日 宮川小学校 『養川せぎの現地見学』	4年 61名	講師：春日純一		
(8)	10月31日 宮川小学校 『養川せぎの現地見学』	4年 62名	講師：茅野靖夫		
(9)	11月6日 永明小学校 『養川せぎの現地見学』	4年 28名	講師：茅野靖夫		
(10)	11月11日 永明小学校 『養川せぎの現地見学』	4年 28名	講師：春日純一		
(11)	11月18日 北山小学校 『養川せぎの現地見学』	4年 25名	講師：茅野靖夫		
(12)	11月28日 米沢小学校 『養川せぎの現地見学』	4年 50名	講師：春日純一		
(13)	11月28日 湖東小学校 『昔の暮らし』	4年 52名	講師：茅野靖夫		
(14)	12月10日 金沢小学校 『大豆からの豆腐づくり』	2年 24名	講師：仙石喜一、仙石かつ子 宮下、長田、平尾、春日		
(15)	12月11日 永明小学校 『大豆からの豆腐づくり』	2年 32名	講師：仙石喜一、仙石かつ子 宮下、長田、平尾、春日		
(16)	12月25日 永明小学校	2年 31名			



豆腐作り



ところてん作り

『大豆からの豆腐づくり』

講師：仙石喜一、仙石かつ子
宮下、長田、平尾、春日

- (17) 1月9日 豊平小学校 4年 38名
『昔の暮らし』 講師：茅野靖夫
- (18) 1月14日 豊平小学校 2年 37名
『大豆からの豆腐づくり』 講師：仙石喜一、宮下、長田、平尾、春日
- (19) 2月10日 永明小学校 3年 34名
『てん草から寒天作り』 講師：長田、宮下、平尾、春日
- (20) 2月13日 永明小学校 3年 36名
『てん草から寒天作り』 講師：長田、宮下、平尾、春日
- (21) 2月17日 永明小学校 3年 37名
『てん草から寒天作り』 講師：長田、宮下、平尾、春日
- (22) 2月19日 玉川小学校 4年 67名
『昔の暮らし』 講師：茅野靖夫、春日純一
- (23) 2月20日 玉川小学校 4年 71名
『昔の暮らし』 講師：小林深志、春日純一

他市町村

- (24) 8月23日 川岸小学校 4年 39名
『養川コーナー見学』 講師：茅野靖夫
- (25) 9月4日 上ノ原小学校 4年 52名
『昔の暮らしと養川コーナー見学』 講師：春日純一
- (26) 9月5日 高島小学校 4年 36名
『昔の暮らしと養川コーナー見学』 講師：春日純一
- (27) 10月7日 四賀小学校 4年 61名
『養川コーナー見学／さきおり』 講師：春日純一、ボランティア会員
- (28) 10月10日 城南小学校 4年 100名
『養川せぎの現地見学』 講師：茅野靖夫、春日純一
- (29) 12月2日 富士見町境・落合小学校 4年 26名
『昔の暮らしと養川コーナー見学』 講師：茅野靖夫

9 子ども科学クラブ 2月22日現在 21回 延べ 548人

- (1) 4月19日 発足式 28名(親41名)
講演「八ヶ岳の動物たち」 講師：両角源美さん
- (2) 4月27日 「花のつくり」 24名
指導：浜篤さん
- (3) 5月10日 「ネイチャーゲーム」 21名(親2名)
指導：岡野勇二さん
- (4) 5月24日 「春の野鳥観察」 24名(親30名)
指導：野澤進之輔さん
- (5) 6月14日 「水の汚れを調べる」 名(親2名)
指導：浜篤さん
- (6) 7月12日 「地層と岩石の事前学習」 22名(親2名)
指導：浜篤さん

- (7) 7月27日 「ミヤマシロチョウ観察会」 6名(親5名)
指導：福田勝男さん
- (8) 8月3日 「夏の星座観察」 19名(親13名)
指導：浜篤さん
- (9) 8月9日 「川虫で水環境を探る」 11名(親13名)
指導：茅野靖夫
- (10) 8月23日 「霧ヶ峰の植物観察」 14名(親9名)
指導：小松正夫さん
- (11) 9月14日 「杖突峠化石採集」 15名(親22名)
指導：小池春夫さん
- (12) 10月5日 「佐久町兜岩化石採集」 11名(親11名)
指導：渡辺正喜さん
- (13) 10月26日 「電気の基礎」 18名(親2名)
指導：浜篤さん
- (14) 11月1日 「双発ヘリコプターを作ろう」 21名(親7名)
指導：江原暉将さん
- (15) 11月23日 「ロケットを作ってあげよう」 21名(親4名)
指導：植松努さん
- (16) 12月13日 「手作りモーターの制作①」 17名(親3名)
指導：浜篤さん
- (17) 12月20日 「天文講演会」 10名(親20名)
指導：若宮崇令さん
- (18) 1月10日 「手作りモーターの制作②」 17名(親3名)
指導：浜篤さん
- (19) 1月25日 「科学マジック実験」 13名(親5名)
指導：浜篤さん
- (20) 2月7日 「昆虫や植物を点描で描いてみよう①」 9名
指導：茅野靖夫
- (21) 2月22日 「昆虫や植物を点描で描いてみよう②」 9名
指導：茅野靖夫
- (22) 3月14日 「昆虫や植物を点描で描いてみよう③」 5名
指導：茅野靖夫
- (23) 3月21日 「手作りモーターの制作③」 1名
指導：浜篤さん
- 10 古文書解読事業 講師：細田貴助さん(博物館専門委員)
(1) 古文書相談会 4月19日～10月18日 6回 参加者のべ 21人
(2) 古文書解読講座 12月13日～1月18日 8回 参加者のべ 195人
- 11 ミュージアムコンサート 12月7日(日) 参加者 166人
演奏者 豊平小学校 合唱部 46人のみなさん
- 12 天体観測室の公開事業
(1) 星空観望会 講師：両角英晴さん、大谷勝巳さん
北部生涯学習センターで実施 30回予定 6回実施 参加者のべ 38人
(2) 天文講演会 (子ども科学クラブと共催) 12月20日(土) 参加者 40人
講師：若宮崇令(横浜国立大学非常勤講師、日本プラネタリウム協会顧問)
演題「星座観測の魅力」
- 13 博物館ボランティア
(1) 「山浦の語り部」登録数 9人
地元のお年寄りから昔体験や地場産業、郷土食などを取材して、話し言葉のまま編集し冊子にするワークショップを行ってもらっている
(2) 「ねじばな」登録数 32人
はたおりボランティア。糸整経から織りまでを学びあったり、博物館の体験講座ではたおりを指導する活動を行うワークショップ
(3) 「自然観察友の会」登録数 66人
身近な自然を知るというテーマで、里山を中心に自然観察会を行うワークショップ
4月8日 探鳥会 公開 運動公園



探鳥会



鍋倉山のブナ林観察会

- 4月29日 探鳥会 公開 市民の森駐車場
 5月1日 ヒメギフチョウと早春の花観察会 非公開 八ヶ岳舟山林道
 5月3日 探鳥会 公開 尖石考古館、青少年自然の森の周辺、竜神池
 5月10日 すみれ観察会 公開 東急リゾート周辺
 5月13日 観音沢スワミレ等観察会 非公開 下諏訪町観音沢
 6月7日 飯山鍋倉山のブナ観察会 非公開 飯山市鍋倉山
 6月28・29日 八ヶ岳の花観察会 非公開 硫黄岳・横岳
 7月19日 ミヤマシロチョウの観察会 非公開 八ヶ岳舟山林道
 8月5日 霧ヶ峰花の観察会 非公開 霧ヶ峰
 8月19日 アサギマダラ観察会 公開 入笠山
 8月31日 ムツアカネ観察会 非公開 八ヶ岳雨池方面
 9月9日 赤沢自然休養林観察会 非公開 木曾上松町
 10月2日 岐阜 化石採集と瑞浪化石博物館 非公開 中津川・瑞浪
 11月1日 守屋山の地質 非公開 博物館・守屋山
 12月20日 天文講演会 公開 川崎市少年自然の森（富士見町）
 12月23日 探鳥会（冬鳥） 公開 守矢資料館
 1月25日 講演会「わかりやすい遺伝子の話」
 講師：学習会員 松影昭夫 非公開 博物館・講堂
 2月8日 探鳥会（水辺の鳥たち） 公開 上川・諏訪湖
 3月8日 青少年の森の探鳥会 非公開 青少年自然の森

（4）「天文友の会」 登録数 7人

北部生涯学習センター（北部中学校併設）の天文観測室にある40cm大型反射望遠鏡の操作方法を勉強しながら、青雲・星団の観察などを行っている

（5）「文芸ボランティア」 登録数 7人

拓本収集、文学碑探索、学習会など文芸に関する調査・研究を行っている

（7）「諏訪地方の食文化と伝統行事・昔話を楽しむ会」 6人

郷土に伝わる食や伝統行事の掘り起こしをし、気軽に食事をしながら山浦の語り部が収集した昔話を聞く会。一般にも呼びかけ参加してもらっている

・草木染め…クズの葉とヨモギの葉 10月24日（金） 16人

・古代米のぼたもち 3月29日（日）

14 茅野市の自然保護・保全活動

（1）茅野ミヤマシロチョウの会 会員 74人

趣旨：絶滅に瀕している県天然記念物、県希少野生動植物特別指定種である、ミヤマシロチョウを絶滅から守り、後世に継承するための保護・保全活動を行う。大人だけではなく、子どもたちにも動植物の生態観察・保全活動などの事業への参加を促し、学習及び実践活動を通して自然の大切さ・生命の大切さを学び、心身共に健全な子どもの育成を図る。そして豊かな自然環境を再生し、生態系の種の多様性を求める保護保全活動を、県内外に発信する起点とする。

博物館協議会委員名簿

<平成 20 年度>

委員長	篠原敬博	副委員長	飯田美智子
委員	丸茂伊一	委員	津久井秀喜
委員	湯田坂正一	委員	両角英晴
委員	佐藤礼子	委員	五味雪子
委員	松田和正	委員	塩野晴幸
委員	仙石喜一		

八ヶ岳総合博物館専門委員名簿

<平成 20 年度>

自然(動物)	下山良平	自然(天文)	今井文明
自然(植物)	岩波 均	自然(陸水)	浜 篤
人文(歴史)	細田貴助	人文(文芸)	中山和子
人文(民俗)	牛山圭吾	人文(文芸)	丸茂伊一
人文(文芸)	原 充		

八ヶ岳総合博物館職員名簿

館 長	茅野靖夫
係 長	小林深志
主 査	春日純一
主 任	宮下りよ
臨時職員	伊藤俊彦
臨時職員	平尾静代
臨時職員	長田ひろ子

The first part of the paper discusses the importance of the research and the objectives of the study. It then presents a literature review of the existing research on the topic. The second part of the paper describes the methodology used in the study, including the data collection and analysis techniques. The third part of the paper presents the results of the study, and the fourth part discusses the implications of the findings.

The research was conducted using a quantitative approach, and the data was collected from a sample of participants. The results of the study indicate that there is a significant relationship between the variables being studied. The findings have important implications for the field of research, and they provide valuable insights into the topic.

In conclusion, the study has shown that the research objectives have been achieved, and the findings are consistent with the hypotheses. The results of the study are presented in the following table:

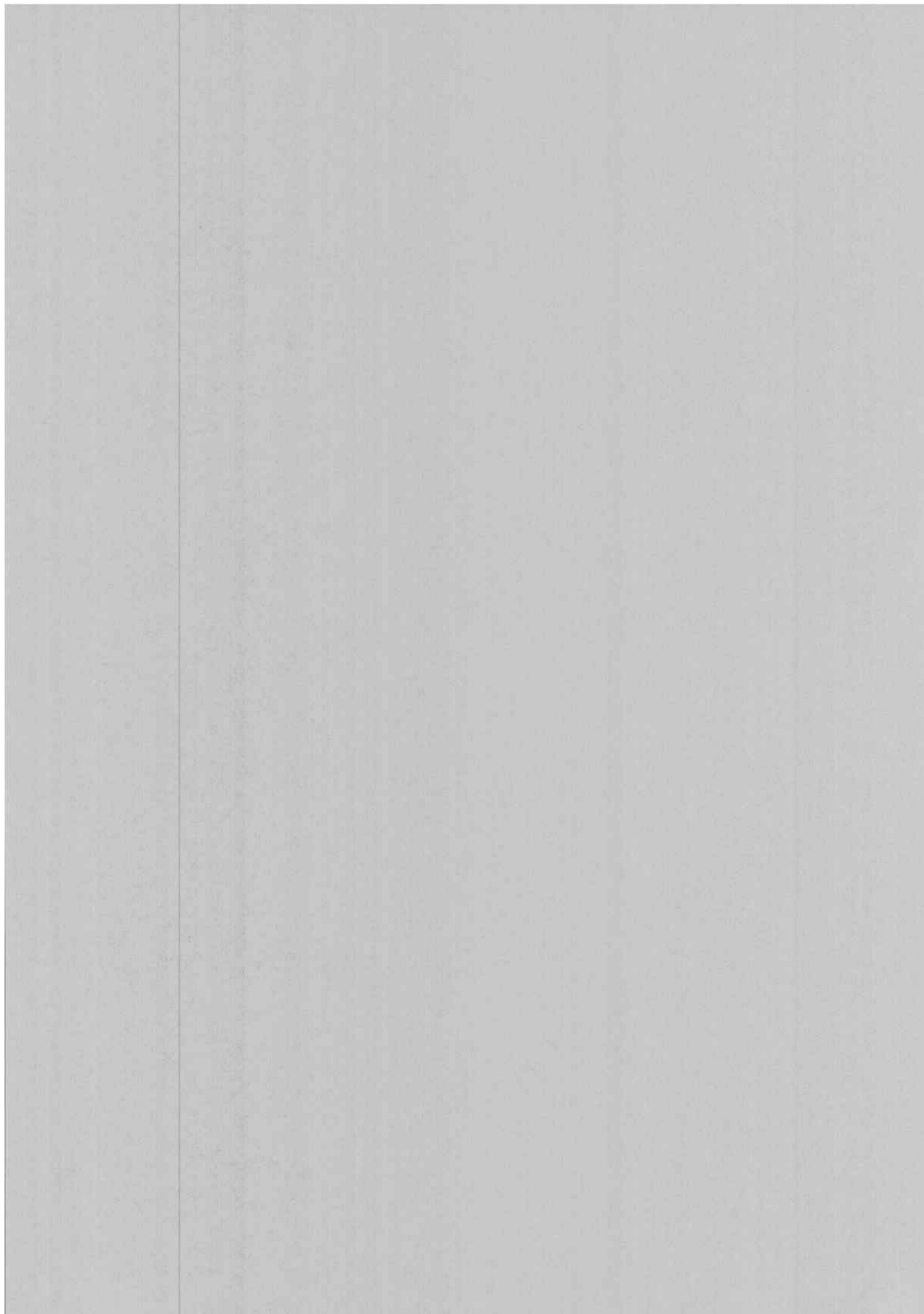
Variable	Mean	Standard Deviation	Significance Level
Variable 1	1.2	0.5	0.05
Variable 2	1.5	0.6	0.01
Variable 3	1.8	0.7	0.001

The table shows that the mean values for the three variables are 1.2, 1.5, and 1.8, respectively. The standard deviations are 0.5, 0.6, and 0.7, respectively. The significance levels are 0.05, 0.01, and 0.001, respectively. These results indicate that there is a significant relationship between the variables being studied.

The findings of the study have important implications for the field of research, and they provide valuable insights into the topic. The results of the study are presented in the following table:

Variable	Mean	Standard Deviation	Significance Level
Variable 1	1.2	0.5	0.05
Variable 2	1.5	0.6	0.01
Variable 3	1.8	0.7	0.001

The table shows that the mean values for the three variables are 1.2, 1.5, and 1.8, respectively. The standard deviations are 0.5, 0.6, and 0.7, respectively. The significance levels are 0.05, 0.01, and 0.001, respectively. These results indicate that there is a significant relationship between the variables being studied.



展示した龍谷文庫の考古資料（尖石縄文考古館蔵）

番号	品名	種別	遺跡名	解説
1	横瓶（よこべ）	須恵器	不明	水や酒などの液体を入れる容器。副葬品として用いられることが多い。『洲羽の土産』には中川氏の添え書きがある。
2	高坏（高坏）	土師器	不明	お供えに利用される。
3	甔（こしき）	土師器	不明	蒸し器。甔などと組み合わせて使用される。
4	はそう（瓦+泉）	須恵器	不明	胴部に穴が開けられている。竹などを挿して液体を注ぐ。
5	壺	須恵器	不明	貫通する穴が特徴。用途はわかっていないが、何らかの祭祀に用いたものか。
6	三角柱形土製品	土製品	豊平下菅沢	『諏訪史』第一巻に小平定太氏蔵とある。
7	注口土器	縄文土器	湖東花蒔	竹を挿入する穴が開けられている。
8	浅鉢	縄文土器	北山	『諏訪史』第一巻には復元実測図が掲載されている。
9	石器標本箱	石器	各地	主に磨製石斧が入れられている。墨書で「南」と書かれているものに「尖石」の紙が貼られている。
10	深鉢口縁部	縄文土器	北山浦	「北長」とあるのは北山長峯遺跡か。
11	標本箱	石器、骨角器、貝製裝飾品	各地	『諏訪史』第一巻掲載時には漆で接合されていたが、破損。
12	標本	石器	各地	磨製石斧、打製石斧、横刃形石器などの石器、骨角器、貝製裝飾品などが見られる。
13	縄文土器破片	縄文土器	「長」	小型の石器には、地元産の黒曜石の他、様々な石材が利用されている。
14	縄文土器破片	縄文土器	「荒」	縄文時代の各時期の石鏃が収納されている。中には「尖」「大和」など朱書きされたものもあるが、ほとんどのものには採集地が記されておらず残念。
15	縄文土器破片	縄文土器	「立」	「長」と朱書きされている。
16	縄文土器破片	縄文土器	「尖」	北山長峯遺跡か。
17	土鍾・土器片鍾	土製品・縄文土器	「大和」	「荒」と朱書きされている。
18	浅鉢	縄文土器	八田在家	『諏訪史』第一巻に写真が掲載されている。玉川荒神か。中御前遺跡あるいは下ノ原遺跡が該当するか。
19	石匙	石器	松ハラ・松原	「立」と朱書きされている。
20	標本	石器	各地	豊平立石遺跡か。

雪人展の考古部門については、三上徹也氏に多くの指導をいただいた。また、当時の新聞記事や東京国立博物館収蔵資料の写真についても提供をいただいた。



(藏氏大室平小) 見發澤菅下村同

雪人と諏訪考古学

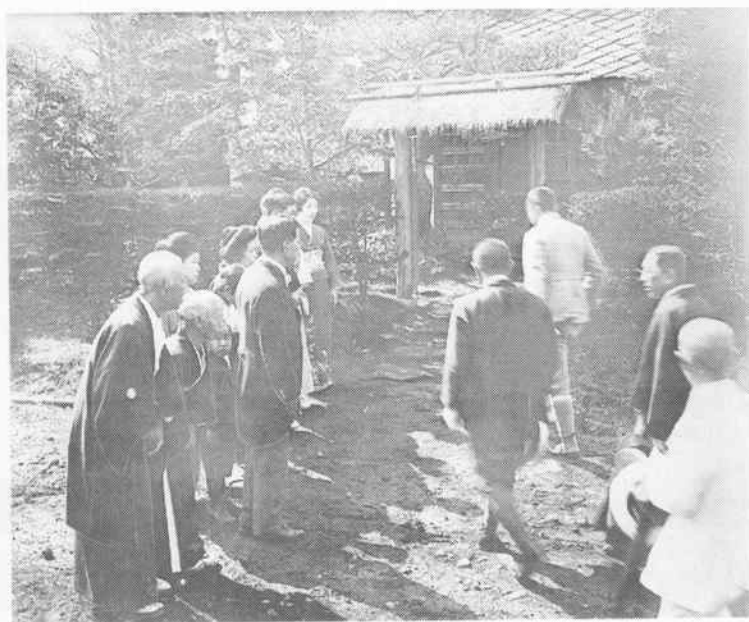
小平治と雪人の、龍谷文庫を飾った収集品は、昭和三年に東京高島屋で開催された展覧会に出品され、高い評価を得ました。これが機会となり、翌年の伏見宮博英王殿下の諏訪地方への考古学調査が実現します。

昭和四年、雪人の案内による殿下の諏訪地方への考古学調査が、十日間に及んで行われました。この間、尖石遺跡をはじめ、中ッ原遺跡、曾根遺跡などを調査されました。

この調査に雪人の俳句の弟子である宮坂英式



(藏氏人雪平小) 見發蒔花村東湖

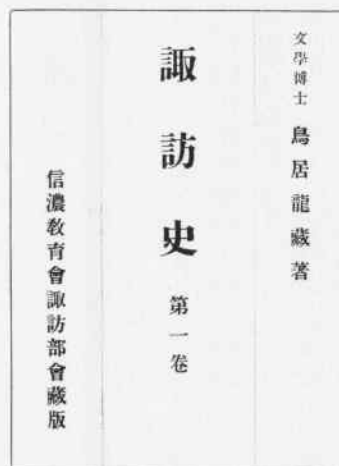
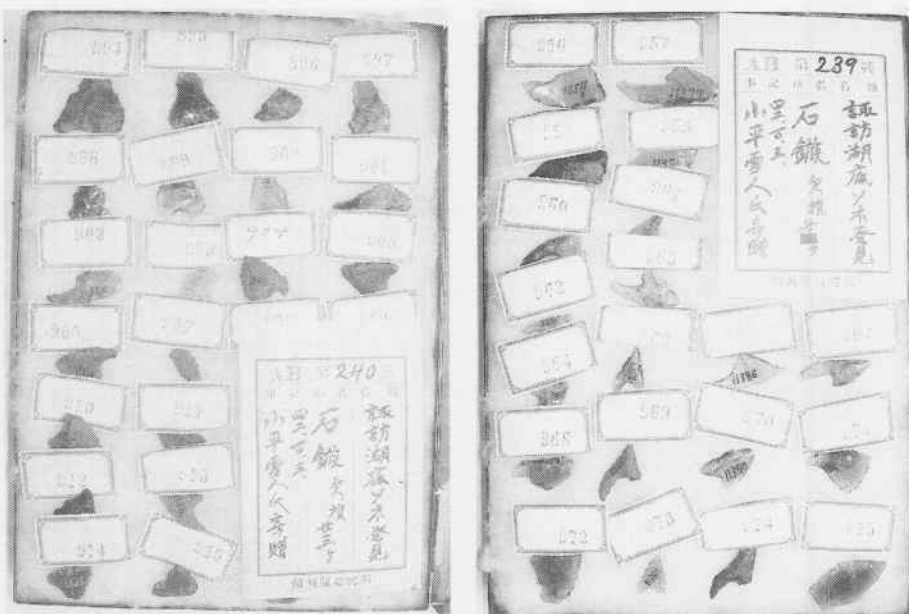


龍谷文庫を訪れる伏見宮博英殿下

も参加し、これをきっかけに考古学に関心を持ち、長年にわたる尖石遺跡の発掘調査が始まったことは、あまりにも有名です。
雪人は殿下を、曾根遺跡にも案内しています。この調査には殿下と同年であった十八歳の藤森栄一も参加しています。藤森少年にしても、後に考古学者として活躍する大きな契機となったことを自ら書き残しています。

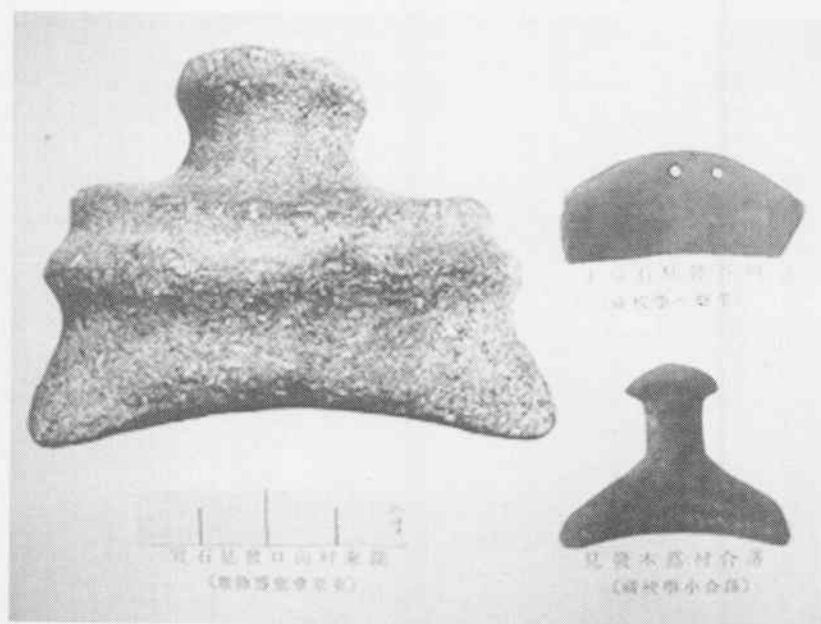
文責 小林深志

『諏訪史』第一巻に見る龍谷文庫
 大正一三年、信濃教育會諏訪部會によって刊行された鳥居龍藏著『諏訪史』第一巻にある「諏訪郡先史時代遺物發見地名表」によると、所在（所有者）の欄に湖東村龍谷文庫の他、上諏訪小平雪人、南大塩村小平定太（小平治・雪人の弟）の名前も見ることができます。このことから、小平治の逝去後、弟たちが考古資料の収集に努めていたことがわかります。



『諏訪史』第一巻中表紙

写真は『諏訪史』第一巻より転載



兄、小平小平治の死と諏訪への帰郷

そして龍谷文庫の創設

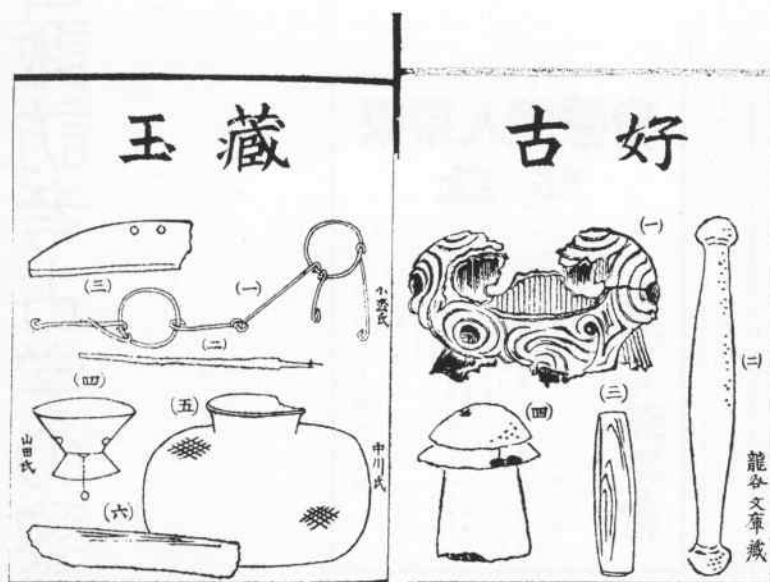
小平治の両親や雪人は兄の死を悼み、生家に龍谷文庫を創設し、蔵書や収集品を展示しました。また東京に学んだ雪人は、兄の死を契機に帰郷して、俳人としての活動の傍ら、考古資料の収集につとめました。

この龍谷文庫は、俳句の弟子である小澤半堂によって出版された『洲羽土産』のなかに紹介されています。そして、地域の人たちには博物館的な施設として、広く貢献するようになっていきました。

雪人の帰郷後、諏訪の俳諧は大いに盛り上がりますが、同時に多くの俳人が考古学に関心を持ち雑誌に論文を掲載しています。雪人自身は考古学の論文を書いた記録はありませんが、こうした諏訪地方の考古学黎明期が、兄小平治の影響で、中央の学会に広く人脈を持っていた雪人によってもたらされたと推測されます。

『洲羽土産』に見る龍谷文庫

明治三五年、小澤半堂により出版された『洲羽土産』には龍谷文庫が紹介されています。資料には、縄文時代の資料の他、古墳時代の須恵器や土師器、鉄製の馬具なども見受けられます。資料には龍谷文庫蔵の他、小森氏、中川氏、山田氏の添え書きも見られますが、寄贈者でしうか。出土地などの情報が記されていないのが残念です。



雪人と曾根遺跡

曾根遺跡は明治四十一年に、橋本福松により発見された諏訪湖底遺跡で、翌年には坪井正五郎博士をはじめとする調査団が組織され、県内初の学術的な考古学調査が行われました。この調査には地元からも発見者である橋本のほか、小澤半堂（孝太郎）など、諏訪の俳諧で活躍していた人々が駆けつけますが、いずれも雪人によって考古学の影響を受けた人々です。この時には、山浦にいた雪人自身の参加の記録は残されていませんが、後に自ら調査に当たったことを、現在東京国立博物館に残されるこの石鏃が明らかにしています。

雪人は、大正九年の鳥居龍蔵博士の『諏訪史』第一巻の編纂に伴う調査にも橋本福松・八幡一郎らと共に参加しています。



東京国立博物館に収蔵されている雪人寄贈の曾根遺跡出土石鏃

三上徹也氏撮影・提供

小平雪人と諏訪考古学の黎明

小平雪人が東京で、そして諏訪へ帰郷後も俳諧人として活躍したことは、多くの知るところであり、今回の企画展においてもその活動については詳細に展示が行われています。一方で、雪人は考古学の分野でも諏訪地方に大きな影響を与えています。その活動はわずかに尖石縄文考古館に「尖石遺跡の発掘を長年手がけた宮坂英次氏を考古学に導いた人」として紹介されているにすぎません。

今回、企画展「小平雪人と諏訪の俳人たち」にあわせ、雪人の考古学における活動に注目しました。

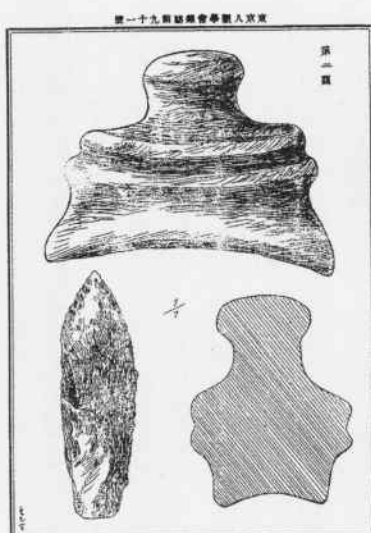
兄、小平小平治と諏訪考古学の黎明

雪人の兄小平治は、長野初等師範学校を卒業後、東京高等師範学校に学び、後に日本考古学会を設立した教授・三宅米吉を指導者に、同級生には東京帝室博物館歴史課長となった高橋健自がいて、刺激を受けつつ考古学への志を深めました。この間、東京人類学会誌に尖石遺跡を初めて紹介するなど、いわば県内では最初の考古学者としての活躍が期待されました。しかし、長野師範学校の教授として帰郷後まもなく、二十八歳の若さで急逝してしまいました。

また、弟の雪人も小平治の影響を多分に受けて考古学に関心を持っていたことが、小平治逝去後の活動や考古学者との交流から伺われます。

[illegible][illegible]

学生時代に論文を発表



東京人類学会雑誌の挿図

資料の中には後に帝室博物館の所蔵となった石冠もある。

番号	展示品	筆者等	内容	備考
97	写真	当館撮影	湖東新井胡桃沢神社掲額	当館蔵
96	写真		若き日の雪人	
95	写真		下諏訪水月園に於いての雪人	
94	写真		上諏訪阿心庵に於いての雪人	
93	写真		地蔵寺においての雪人	
92	写真		親族一同との雪人	
91	写真		父母・親族との雪人	
90	写真		多留姫の滝にての雪人	
89	写真		慶應義塾卒業名簿	
88	複写		慶應義塾勤惰帳(成績表)十二冊	静岡県立中央図書館蔵
87	複写		慶應義塾入社帳	
86	扇面	小平雪人	同門に及第多し更衣	個人蔵
85	扇面		白雨や大龍現す諏訪の湖	
84	扇面		太平を老の願ひや菊の花	
83	複写	小平雪人	妻うたの母及び祖母宛	個人蔵
82	複写		笠原儀助(妻うたの父)宛	個人蔵
81	書簡	笠原嘉次郎	雪人宛大正二年頃書簡	個人蔵
80	書簡		雪人宛明治四十年頃書簡	個人蔵
79	写真	小平功	小平家土蔵	個人蔵
78	色紙	小平雪人	雲こもる扁(とぼそ)に佇てば初日影	個人蔵
77	色紙		我春や神仙に酒仏に花	
76	色紙		露けしや馬失ひし人に逢うたかうなの皮に法華経写しけり	
75	色紙		雪人像(五十歳生誕記念胸像)	個人蔵
74	軸・中床掛	吉川秀山	秋涼し仏少き持仏堂	個人蔵
73	軸・中床掛	長田平次	雪人像(五十歳生誕記念胸像)	個人蔵
72	軸・中床掛		雪祈る声に応へよ冬の神	
71	軸・中床掛		我春や神仙に酒仏に花	
70	短冊	小平雪人	能書来あたかも硯洗ふ日に	個人蔵
69	短冊		杯中の日月長し梅の花	
68	短冊		法性の兜立てたるさくらかな	
67	短冊		荒海をおさえて昇る初日かな	
66	短冊		梅寒く蜆の真珠見つけたり	
65	短冊			
64	短冊			

番号	展示品	筆者等	内容	備考
119	図版		正岡子規自画像	個人蔵
118	軸・半折	関紫竹	夏瘦せに況や妹の詩三味	個人蔵
117	軸・書簡	岩本木外	森山汀川あて(明治三十六年頃)	当館蔵
116	軸・半折	岩本木外	双六や袖の下なる富士の山	個人蔵
115	冊子	両角竹舟郎	句集『北山』	当館蔵
114	軸・半折	両角竹舟郎	雪峯を天の垣とす紅葉茶屋	当館蔵
113	短冊	両角竹舟郎	わが影や初冬の月のありと知る	
112	短冊		月の面に諸手舞はせて縄なへる	
111	短冊		書初や赤短冊の墨は馳	当館蔵
110	短冊		菊枯れてなほ虹蜂の日和あり	
109	短冊		家々の垣およそ菊それも黄に	
108	軸・中床掛	両角竹舟郎	雪人選開句欄	当館蔵
107	軸・中床掛	句誌『乙鳥』	雪人選「信陽俳壇」	当館蔵
106	複写	信陽新聞	『龍門紀伝』第百十二回分	諏訪市図書館蔵
105	複写	信陽新聞	雪人選「文苑欄」	静岡県立中央図書館蔵
104	複写	東京日々新聞	俳句大募集広告	
103	複写	読売新聞	近世俳人譚第一回、二回分	
102	複写	南信日々新聞	雪人の母多よ九十二歳談	当館蔵
101	複写	当館撮影	豊平福沢御社宮神社掲額の冒頭拡大写真	当館蔵
100	写真		豊平福沢御社宮神社掲額の俳句	
99	写真		湖東新井胡桃沢神社掲額の俳句	
98	複写	伊藤早雲写		

小平雪人と諏訪の俳人たち 展示目録へ1

番号	展示品	筆者等	内容	備考
1	拓本	小平雪人	天地の中にもものありふじの山	当館蔵
2			山寺の西に垣なき桜哉	
3			古里や軒端にかかる天の川	
4	軸・拓本	小平雪人	犁を載せて帰る小船や梅の花	当館蔵
5		諏訪蘭幽	ひとつまみおごる菫の幾所	当館蔵
6	軸・半折	河合曾良	袂から春は出でたり松葉銭	当館蔵
7		藤森素槩	河合曾良松島巡行図	個人蔵
8	図版	藤森素槩	俳画四葉	当館蔵
9		加藤暁台	扇面二葉・半折二葉	当館蔵
10	冊子	竹田凍湖編	曾良二百年忌追福『故郷集』	当館蔵
11	複写	李郭画	河合曾良肖像(芭蕉堂歌仙図内)	当館蔵
12	軸・半折	河合正阿	鶯は昨日もどりてけふ老ぬ	個人蔵
13	冊子	小平雪人編	『正阿句集』	当館蔵
14	複写		河合正阿肖像(正阿句集内)	当館蔵
15			俳画其残曼荼羅・三句	
16	軸・全紙	岩波其残	俳画・五月雨もはるるか雲のもどり来る	個人蔵
17	複写	岩波其残	其残十二月月画手本	個人蔵
18	冊子	山田敦夫編	其残追善集『花の山』	当館蔵
19	複写		其残句碑建立趣意書	個人蔵
20	図版	久保島若人	色紙一枚・縣幅	当館蔵
21	連板	中野銀岱	散りそむるうらとおもてや山桜	当館蔵
22	軸・半折	宝井其角	西行法師像(芭蕉堂歌仙図内)	個人蔵
23	複写	李郭画	宝井其角像	個人蔵
24	軸・半折	阿心庵永機	空の底と幟の先は山桜	個人蔵
25	軸・中床掛	阿心庵永機	夜や秋や思ひ惑はで月一つ	個人蔵
26	名刺		“阿心庵雪人 上諏訪町”	個人蔵
27			不二晴れて雪中の春を領しけり 他二句	
28	軸・半折	小平雪人	冬ごもり一羊裘をたからかな 他一句	当館蔵
29			雪の日やひとの呉れたる湊筒 他一句	
30	扇面	小平雪人	木がらしや竹を画かば十万竿	個人蔵
31			山寺や猿も経聴く秋の風	
32	軸・全紙	小平雪人	漢詩・草の戸や十日の菊に人集め	当館蔵

番号	展示品	筆者等	内容	備考
33	色紙	小平雪人	生花に糸引きかけし蚕かな	個人蔵
34	硯箱一式		ほととぎす筆硯けふも潤ひて	
35	葉箱		雪人使用の硯筆墨	個人蔵
36	複写		医家小平家伝来の葉箱	当館蔵
37			雪人撰『諏訪俳句古撰』表紙	茅野市図書蔵
38	連板	小平雪人	大寺の厠は寒し虫の声	
39			人語よくきこえてすめり秋の山	当館蔵
40	色紙	小平雪人	高僧の辻説法や春のくれ	個人蔵
41			梅に鶴百年寒さ知らぬ也	
42	軸・半折	小平雪人	古里や別に春あるははが家	当館蔵
43	冊子	小平雪人	山芭蕉手折らんとすれば雲起る	当館蔵
44	軸・中床掛	小平雪人	雪人俳詩(自筆)	個人蔵
45	色紙	小平雪人	太刀佩いて神の渡るや春の水	個人蔵
46	色紙	小平雪人	御柱のしるき宮居や寒の梅	個人蔵
47	扇面	小平雪人	復興は芸術よりぞ国の春	個人蔵
48		小平雪人	古里や軒端にかかる天の川	個人蔵
49		小平雪人(五十五歳)	夏山に吾盧を愛すひとりかな	
50	軸・全紙	小平雪人(八十七歳)	宮下正岑「勸農の詞」	当館蔵
51	文台(机)		宮下正岑「勸農の詞」	個人蔵
52			小尾俎杖に与えられたもの	個人蔵
53			荒海をおさえて昇る初日かな	
54			皇紀二千年の初日かな	
55			今落ちし一葉をわたる単かな	
56			末がれやきのふ越えたる宇都	
57	短冊	小平雪人	の山	
58			臘八や道に入るさの山の月	
59			徳本の念仏も雨の十三夜	個人蔵
60			此菊によき名選ばん後の難	
61			菊置て故園の春や後の月	
62			秋風や畳を掃いて又眠る	
63			水晶の文鎮置きて吉書哉	
64			文月やこの明月は女の夜	

堂永機・阿心庵雪人とあり、正式に阿心庵を襲名したらしい。ただし永機との確執があったらしく、阿心庵は自分一代で廃絶の意を表明。永機との養子縁組を解消し小平家の相続人として帰郷。

兄小平治の遺品(蔵書、土器・石器など)を収蔵した「龍谷文庫」を生家につくる。

師永機とともに校訂した『芭蕉全集』(俳諧文庫第一編)を博文館より出版。『校註蕪村全集』出版。『読売新聞』に「近世俳人譚」を連載する。『沢庵和尚全集』を編集刊行。

○明治三十一(一八九八)年二十六歳

阿心庵を龍谷文庫に並べて建てる。『校訂其角全集』刊行。

明治三十二(一八九九)年二十七歳

笠原うたと結婚。

○明治三十四(一九〇一)年二十九歳

『笠家庵全集』『正阿句集』刊行。長男真弓誕生。雪人は二男二女の父親で、長女つゆ(明治三十六年生)、次男鼎(明治三十八年生)次女こ(明治四十二年生)。

○明治三十六(一九〇三)年三十一歳

農閑期、自宅で山浦地方師弟のため『湖東義塾』開設。(三十九年まで)

○明治三十七(一九〇四)年三十二歳

尾崎紅葉句稿の編集に参加。『南信評論』俳欄選者となる。師永機死去。

○明治四十二(一九〇九)年三十七歳
長崎県の壱岐勝本にて河合曾良二百回忌を挙行。

○明治四十三(一九一〇)年三十八歳

大逆事件発生し関連(幸徳秋水に宮下大吉を紹介したとの嫌疑)ありとして以後七年間尾行がつく。和歌山、長崎、新潟などを流転する。

○大正三(一九一四)年四十三歳

渡辺千秋の助言により漸く嫌疑解け、上諏訪町湯の脇に住むことになる。以後諏訪の地に腰を据え、本格的俳人活動に入る。

○大正四(一九一五)年四十三歳

福沢諭吉の先祖の福沢村善徳屋敷跡を豊平村福沢と指摘。『信陽新聞』創刊。俳欄の選者となる。『龍門紀伝』を連載する。また『南信日々新聞』の俳欄選者ともなり、多くの人材を育成する。

この頃より俳句の世界は虚子主宰の『ホトトギス』全盛時代となる。客観的に見れば雪人は田舎の旧派の一宗匠にすぎない。

○大正十(一九二一)年四十九歳

『阿心庵句帖』出版

○大正十三(一九二四)年五十二歳

『諏方大明神絵詞』古写本により校訂・刊行する。

○大正十四(一九二五)年五十三歳

『一茶八番日記』の整理・写本をするも手違

い等あって出版に至らず。

○昭和三(一九二八)年五十六歳

「石器時代文化展覧会」に長野県代表として龍谷文庫の所蔵品を出品する。

○昭和四(一九二九)年五十七歳

伏見宮博英王、石器時代調査のため諏訪へ来られる。龍谷文庫見学。発掘の指揮を雪人が執る。雪人の俳句の弟子で牧馬会に所属していた南大塩の宮坂英式は泉野小の生徒とともに応援に駆けつけ、考古学の魅力にとりつかれる。宮坂にとって俳句も考古学も雪人が師匠であった。

上諏訪の町中を転居。昭和五年弁天町、同八年湖柳町。

○昭和十九(一九四四)年七十二歳

『雪人俳詩』出版。

○昭和二十(一九四五)年七十三歳

強制疎開のため湖東の自宅に帰る。

○昭和三十三年(一九五八)年

十二月逝去。数え齢八十七歳。自家の墓に葬る。

小平雪人略年譜

○明治五(一八七二)年

七月二七日小平家禎三・多よ次男として湖東の上菅沢に生まれる。小平家の祖先は、戦国期甲州の読本(とくほん)で外科を習い、家伝の医家として信州の三名医として知られ「乳のお医者で知られたる小平家」と唄われた。

○明治十一(一八七八)年(満)六歳

中村学校入学↓同卒業↓南大塩学校高等科進學と推定。

○明治十九(一八八六)年十四歳

小学校卒業。兄小平治長野師範入学。保科五無齋と同級。この年上京か? 雪人の上京については次の三説があり定かでない。

1 明治十九年説

藤森修齋(友人)小平鼎(雪人次男)上原痴仏坊(雪人門人)

2 明治二十年説

雪人本人(金井清との対談、高齢ゆえ必ずしも部分あり)

3 明治二十一年説

小平真弓(雪人長男)茅野市教育委員会

○明治二十一(一八八八)年十六歳

受験予備校成立学舎(神田駿河台・漱石もかつて在籍)に学ぶ。英語習得のためか。

○明治二十二(一八八九)年十七歳

三月慶應義塾正科に入学。予科は四番の二より就業であるが、雪人は三番の二に入学。

次男鼎の編纂になる『小平雪人』の年譜にはこ

の年福沢諭吉に可愛がられ『時事新報』『東京日々新聞』の俳壇選者になったとあるが、入学早々であつてみれば福沢との関わりも薄いと思われ誤伝か? 両新聞のマイクロフィルムを閲するにその形跡なし。真弓は明治三十二年としているが、俳句史的に矛盾がある。

○明治二十三(一八九〇)年一八歳

兄小平治東京高等師範学校進學(あるいは翌年か)。慶應義塾ではこの年大学部を発足させ、文学・理財・法律の三科を創設したが、雪人は大学部には在籍していない。従つて「慶応大学文学部卒業」というのは雪人の学歴としては正確ではない。なお、大学部設置に伴い正科・別科を「普通科」と呼ぶこととなる。

前年度の入社帳には名前が「探一」ではなく「彌一」となっているが、誤記ではなく徴兵制に対応しての故意の記入であつたようである。

○明治二十四(一八九一)年一九歳

五月より普通部予科より正科に進級。成績に出席日数が加味されるため成績は必ずしも芳しくない。阿心庵永機の旧派俳諧に入門し、学業より俳諧に熱心であつたためと思われる。

○明治二十五(一八九二)年

二期正科より別科へ転向。在塾中諭吉の俳号雪池から一字を得て雪人と号す。諭吉の別荘に出入りし、社会主義者等とも交わる。

○明治二十六(一八九三)年二十一歳

四月慶應義塾普通部別科卒業。英国の移民会社に就職の意向も身体検査で不備となり、師永機より立机(一人前の俳諧師となること)を認められ阿心庵門下の晋雪人を名乗り、業俳(プロの俳諧師)として芝の紅葉館を主として貴紳に交わる花形となった。

○明治二十八(一八九五)年二十三歳

三月『東京日々新聞』には阿心庵永機とあり、十月『女学雑誌』にも「阿心庵中にありては晋雪人」とある。阿心庵継承は既定の事実として、なお襲名には至らなかったようである。十月長野師範学校教諭(教授)を勤めていた小平治が突然逝去。

○明治二十九(一八九六)年二十四歳

五月の『新々明治発句百家撰』になお阿心庵永機とあるが、三月『東京日々新聞』の「文苑」の俳句欄は雪人選、十月の『時事新報』の「楓山日抄」も雪人主宰であり、この年の春頃から実質の阿心庵を継承したと思われる。

森鷗外の未発表草稿に当時の俳派として日本派(子規等)、秋声派(巖谷小波等)大学派(大野洒竹等)とともに雪人派として四大派閥の一つに数えている。子規は改革派、小波・洒竹は改良派、雪人は其角以来の伝統(旧派)俳諧である。

○明治三十(一八九七)年二十五歳

二月「俳諧同志倶楽部」の発足に際し、老鼠

大衆詩としての俳諧（旧派俳句）

室町時代末の俳諧連歌から生まれた俳諧は滑稽を中心とする大衆詩であった。芭蕉によって芸術に高められたものの、本質としての大衆性は喪われることなく旧派の俳諧を流れ続けた。芭蕉の一番弟子の其角は俳諧の芸術を守ることよりも俳諧によって現世の榮達を手中にしようとした。俄か分限の紀伊国屋文左衛門の取り巻きであったことはその証しの一つである。

以降俳諧は大衆化、墮落化するに従って芭蕉の存在は対照的に神に近づいていった。芭蕉を神格化することで宗匠たちは墮落を覆い隠そうとしたのである。人々は俳諧に心を寄せ、句作することを「風雅に遊ぶ」と言ったが、それは風雅に遊べる境遇を誇示することを意味していた。いわば武士の帯刀、金持ち階級の銀の煙管（きせる）に相当するものだといえよう。

近世から近代にかけ大衆にとって俳諧は作るより遊ぶ性格のものであった。



福沢御社宮司神社の掲額

第一句目雪人

昭和天皇御成婚を祝して

大正十一年一月七日 信陽新開第二千一十一號

信陽俳壇

天龍吟社第二十卷 阿心庵雪人宗匠選

五 点
初氷透して水の動く見ゆ
雨後や道の霜の初氷
明け近く月落る頃や初氷
忘年の會を持ち込む師庵かな
日曜を忘年会や勤め人
町更けて風の尖るや冬の月
山門のいよく高し冬の月
老松に草鞋かゝれり冬の月
雪除けの薬に小島や冬の梅

一 櫻 瓢 耕 漁 萍 鏡 瓢
人 郷 水 人 山 村 水 湖 人

十 客
寒梅や障子にうつる鳥の影
軍港のラッパ響くや驚の飛ぶ

一 柳 棠
明 塘

初氷馬の蹄に崩れけり
水車場のしぶきや今朝の初氷
初氷富士半面の朝日かな
心合ふ人寄て忘年会に會す
八十の益壽ふたり年わすれ
祖父も来てはう年會の談ひ哉
丘上に志士の一碑や冬の月
寒梅と水仙とある机かな
寒ばいに一家舉りて轉地かな
大鷲や雪後給を描く夕

三 光
歸省せる稀人も居て年わすれ
山門に庭啼くや冬の月
梅を見て不二見て年わすれ幾
祇や村や旅家に會して年わすれ

一 碧 萍
葉 水 水

▲▲冬季吟を募る
▲上諏訪町阿心庵宛の事

遺者

諏訪新俳諧の代表

岩本木外（一八七二—一九一〇）

下諏訪町高木生まれ。諏訪郡下の小学校教員として奉職。

明治三十一（一八九八）年、関紫竹とともに『二葉会』を創設し、

正岡子規に新派俳諧、近代俳句を学ぶ。

明治三十二年『諏訪文学』発刊。

明治三十五年『諏訪新俳句』出版。

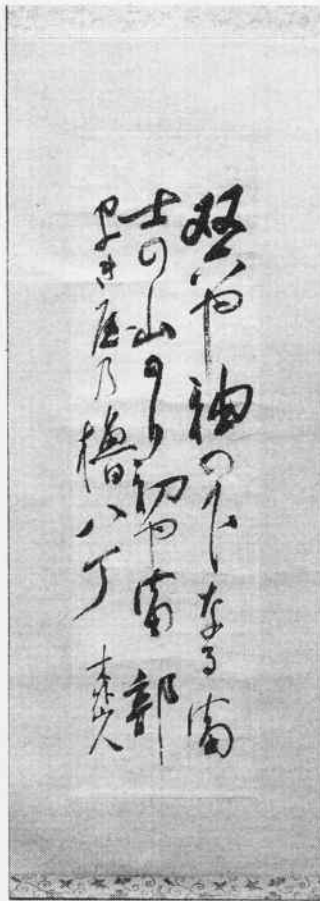
明治三十六年『比牟呂』発刊。俳句の面でその中心的存在となる。「長

野新聞」俳壇の選者となる。

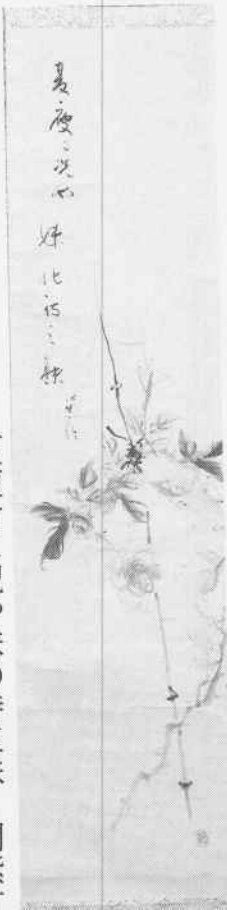
「孝太郎の話」「諏訪軍人鑑」「奥村五百子」など出版。

明治四十三年八月死去、三十九歳。

明治四十五年『木外遺稿』出版。



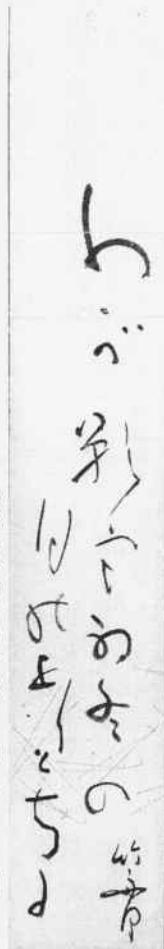
双六や袖の下なる富士の山 木外



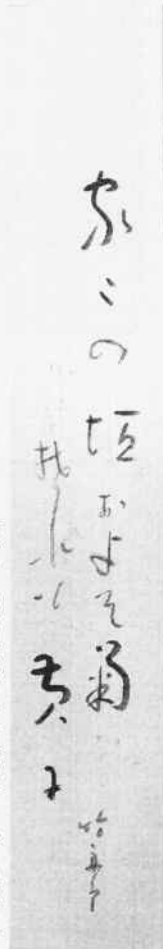
夏痩せに況や妹の詩三昧 関紫竹



菊枯れてなほ虻蜂の日和あり



わが影や初冬の月のありと知る



家々の垣およそ菊それも黄に

雪人が帰郷したところ（明治三十年代前半）の諏訪の俳句結社

観月会（湖東）

雪人など

鷺社（湖南）

時雨会（永明）

昼寝会（上諏訪）

芦声会（下諏訪）

交阿会（北山）

竹舟郎など

一声会（上諏訪）

淡社（平野西堀）

木外など

美簫会（諏訪中学）

汀川など

鶯社（湖南）

新類 氏人の晩起や 雪人
 新類 氏人の晩起や 雪人

氏人の晩起や 雪人

粥杖ふ伐りー 雪人
 粥杖に伐りし柳は伸びにけり

粥杖に伐りし柳は伸びにけり

短冊

秋涼しほとけ 少なき持仏堂
 秋涼しほとけ 少なき持仏堂

秋涼しほとけ 少なき持仏堂

朝焼の空とよもして 初鵜
 朝焼の空とよもして 初鵜

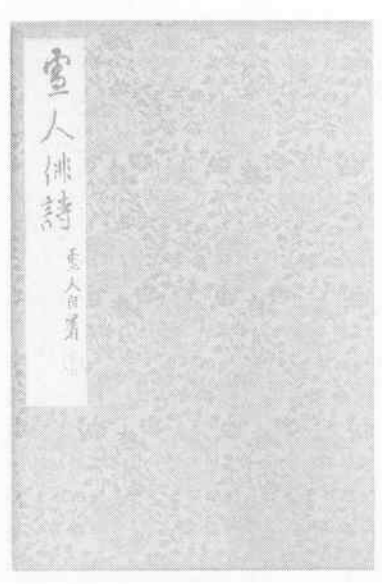
朝焼の空とよもして 初鵜



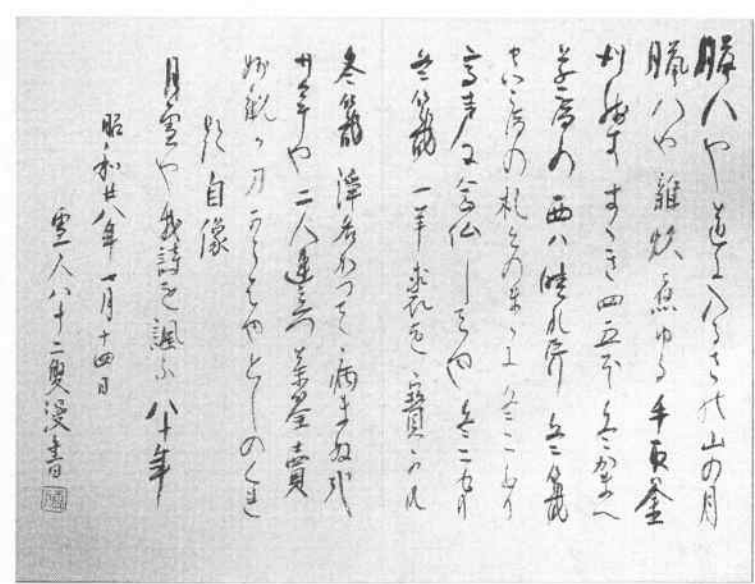
遺愛の硯



雪人選「諏訪俳句古撰」



「雪人俳詩」表紙



「雪人俳詩」末尾

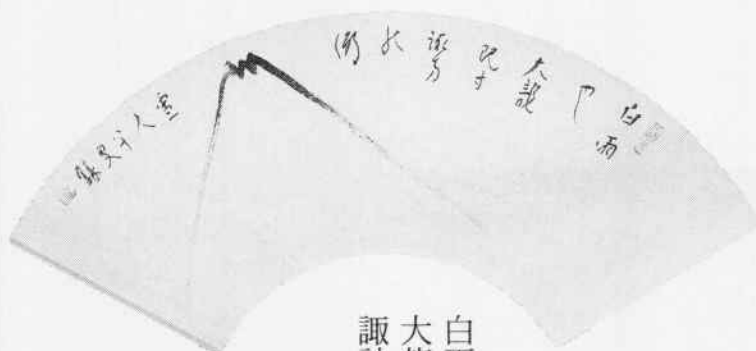
扇面



古里や
軒端にかかる
天の川



夏山に我蘆を
愛すひとり哉



白雨や
大龍現す
諏訪の湖

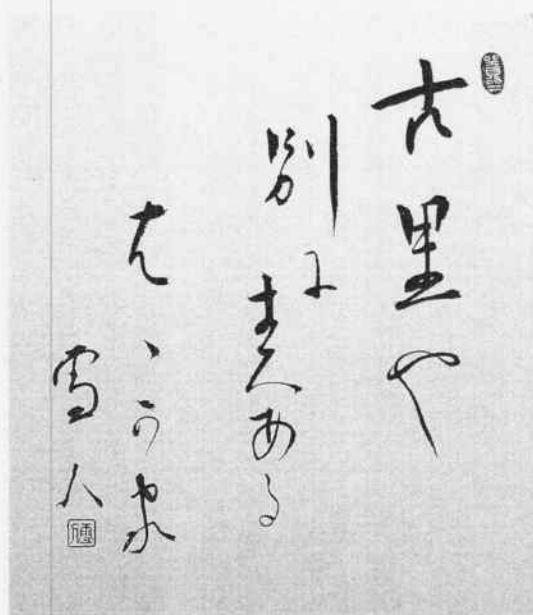


太平を
老の
願ひや
菊の花

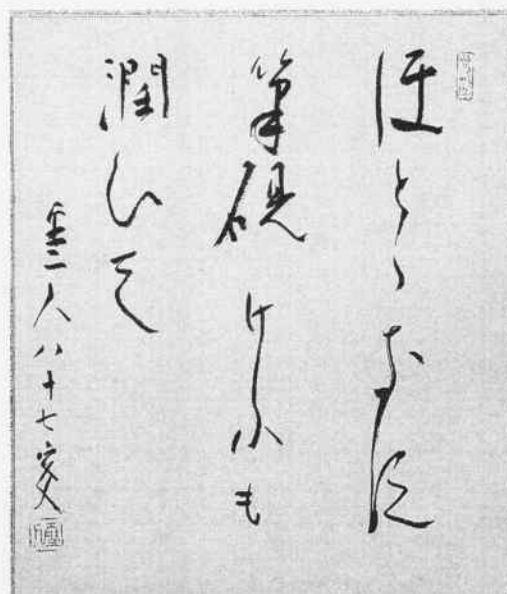


同門に
及第
多し
更衣

色紙



古里や別に春あるはが家



ほととぎす筆硯けふも潤ひて

雪人の半切類

雪のりや比平の共れ〜湊岡
 しいほとく人乃健れや年のくも
 昭和丁丑青簡 音雪人録於秋の悦う

雪の日や人の呉れたる湊岡 他

不二晴れる雪中の春を領しけり
 人乃日や竹の養子の翫を梅
 芹譯け芹こゝも春のふ〜ふき

不二晴れて雪中の春を領しけり 他

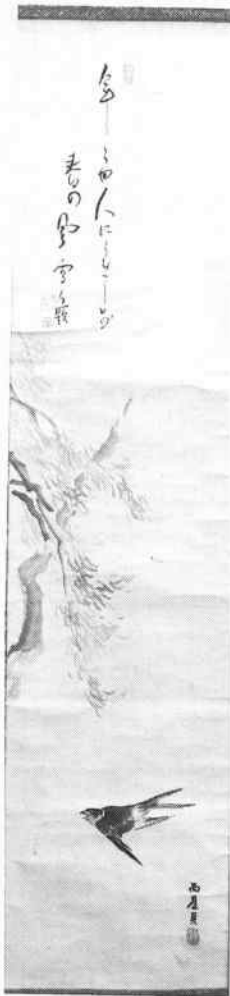
木〜や作を画は十萬竿
 冬こもり一羊裘をたからかな
 昭和丁丑青簡 音雪人録於秋の悦う

冬こもり一羊裘をたからかな 他

郭仲晦謂劉信叔曰文章事當以簡易
 簡以制繁易以制難便不費力就坤之大
 所以使萬物由其宰制者不遠哉二言況於人乎仲晦
 は論云謂洞先王萬物之德且以用兵言之韓偓多言
 一簡字狀云襄夜半破炭窗開一易字
 年れ戸や十日れ〜人集あ
 雪之秋 音雪人録

句は雪人 草の戸や十日の菊に人集め

木 竹 十萬竿
 木がらしや竹を描かば十萬竿



句雪人 書舟鶴 絵西崖



夜や秋や
思ひ

惑はで
月一つ

雪人初期の句

(子規を驚嘆させた頃)

明治二十九年

起きて聞け猫恋ふる夜の明月記
友にせん李は花の痴なるもの
藤だなを鼠の渡る月夜かな
蝸牛(かたつむり)のぼりかけても竹箒
古郷や衛門あれて枳(き)穀(こく)咲く
鼓鳥なれも我門狂居士か

明治三十年

鉢叩名を聞くことの長かりし
春の夜や枕の高さ小三寸
春の夜や大雅の筆の行処(ゆきどころ)
酒くさき其角頭巾や宵の春
行春に負はせやならぬ酒債哉

同じ頃の子規の句

明治二十九年

のどかさや千住曲れば野が見ゆる
寝て聞けば上野は花のさわぎ哉
汽車過ぐるあとを根岸の夜ぞ長き
北国の底は長し天の川
いくたびも雪の深さを尋ねけり

明治三十年

雲無心南山の下畑を打つ
つり鐘の帯(へた)のところが渋かりき
三千の俳句を聞(けみ)し柿二つ
萩咲いて家賃五円の家に住む
聳えたつ枯木の中や星一つ
虚子を待つ松茸寿鮓(ずし)や酒二合
吉原の太鼓聞ゆる夜寒哉

雪人(旧派)の特色

伝統的な俳諧の理念に忠実に作った俳諧世界。そこには芸の世界はあるが、作者独自の自然観や人間性を反映するといった近代的文学要素は無い。茶道や華道と同じ芸道の次元の世界である。

子規(新派)の特色

俳句を近代(西欧)文芸に属するものとしてし、伝統的、観念的なタイプ(類型)を否定し、自分の発見を大切にし、その方法として「写生」を主張した。

明治二十九年頃より病臥がちの自分の生活、境涯を反映した句が見られるようになり、深みを増した。

雪人の句が現在顧られないのは近代文学的要素に全く欠けているからである。

穂積永機(一八二三—一九〇四)

六世其角堂の子として江戸に生まれ、上野、向島等に結庵し明治三年其角堂七世を襲名、後これを弟子機一に譲り、芝公園内庵を結び阿心庵(其角の庵号)と号し貴紳と交わり名声が高かった。雪人はこの時代に永機に師事して俳諧を学んだ。明治二十年代後半雪人に阿心庵を譲り老鼠堂と名乗り、雪人を養子としたが小平治の死により解消された。幕末から明治へかけての旧派俳諧の大御所的存在であった。

小平家系図

初代 理兵衛……定五郎……貞五郎——多よ
六代

正保 4(1647) 年南大塩村より上菅沢新田草分けとして入植。
堰の改作に尽力。93 歳で没。医業を家業とする。

寛政 3(1791) 年の文書に名主として見える。

1814 ~ 1893。医師、手習師匠で松圃と号し、筆塚がある。

七代目 禎三

1845 ~ 1930。医師。玉川より入婿。湖東村長。

小平治（一八六八〜一八九五）長野師範・東京高等師範卒。長野師範教諭。龍谷と号し、考古学の先覚者。

探一（一八七二〜一九五八）慶應義塾卒。俳人。

てい（木川氏）（一八七五〜一九四五）

けい（笠原氏）（一八七七〜一九五七）

定太（一八七九〜一九五四）千葉医専卒。医師。

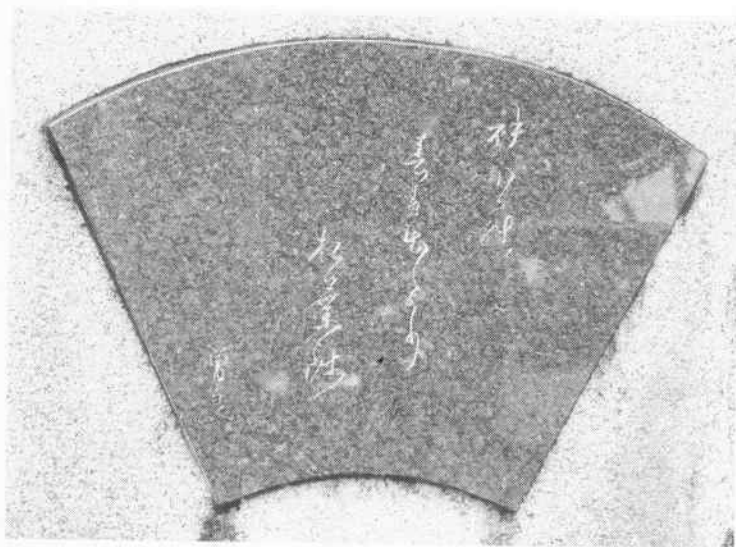
寛江（一八八一〜一九五一）画家。



家の小平家の薬箱



前列父母、後列左より 3 人目雪人

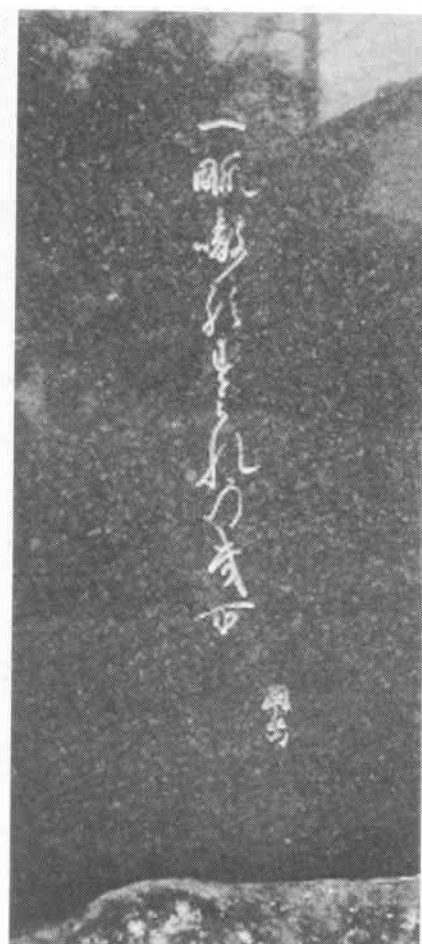


河合曾良 (諏訪市文学の道公園)

岩波其残 俳画



諏訪闇幽 (諏訪市文学の道公園)



なやひのしるしおのやうな山桜

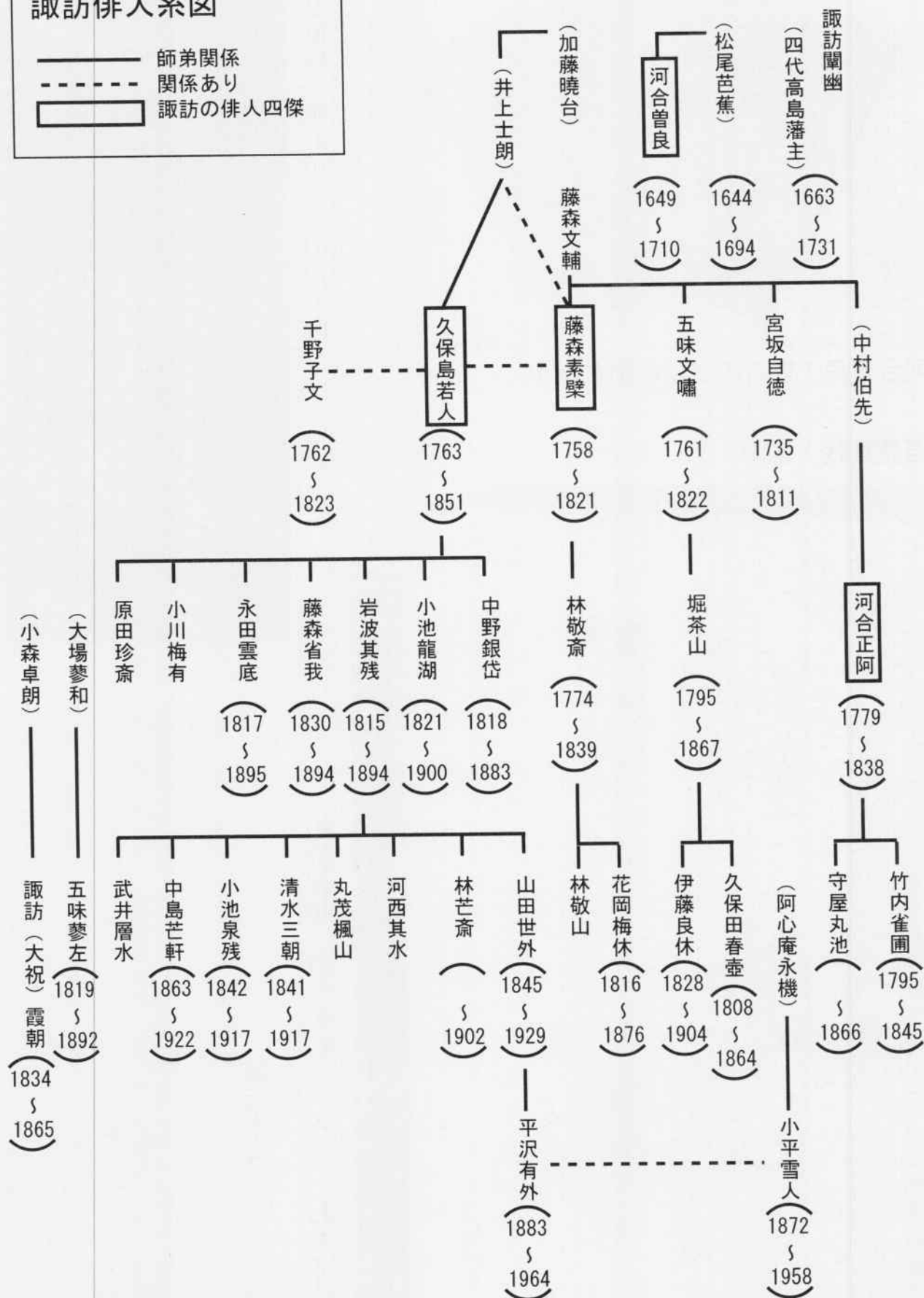
中野銀岱 散りそむる うらとおもてや 山桜

藤森素壁 奥の細道巡行図



諏訪俳人系図

——— 師弟関係
 - - - 関係あり
 [] 諏訪の俳人四傑



近世俳人系図

—— 師弟関係
 - - - - 関係あり

室町末期
 (俳諧発生)

連歌
 (有心)
 (無心)

俳諧連歌

俳諧

山崎宗鑑

荒木田守武

江戸初期
 (俳諧成立)

貞門派

松永貞徳

北村季吟

談林派

西山宗因

井原西鶴

元禄期
 (俳諧完成)

蕉風

1644 ~ 1694
 松尾芭蕉

江戸
 蕉門

田舎
 蕉門

享保期
 (俳諧大衆化)

天明期
 (蕉風復興)

化政期
 (芭蕉の偶像化)
 (趣味化、通俗化)

天保期
 (月並墮落)

向井去来

森川許六

《江戸座》

1661 ~ 1707
 宝井其角

《雪門》

1654 ~ 1707
 服部嵐雪

《美濃派》

《伊勢派》

河合曾良

1649 ~ 1710

中川乙由

()

()

()

《其角堂》

一世 湖十 二世 ~ 五世 湖十

()

()

各務支考

()

()

()

()

炭太祇

与謝蕪村

1716 ~ 1783

角和派

以哉派

()

()

()

小林一茶

1763 ~ 1827

六世 螺窓永機

七世 宝晋斎永機

小平雪人

井上史朗

加藤曉台

加舎白雄

(春秋庵)

夏目成美

藤森素壁

1758 ~ 1821

平政の今日

第三九世 国島十雨

勢治・大正にも
 勢力を維持

笠家庵全集（明治三十四年）

正阿句集（明治三十四年）

竜門紀伝（大正四年より『信陽新聞』に数年間連載）

阿心庵句帳（大正十年）

諏方大明神絵詞（校訂、大正十三年）

雪人俳詩（昭和十九年）

素檠句集（昭和三十一年 雪人補）

明治三十六年から三十九年まで冬期間の山浦地方の子弟の教育のため「湖東義塾」を開塾。明治四十二年老岐勝本にて曾良二百回忌を行う。ところが、明治四十三年大逆事件発生に伴い慶応義塾時代福沢諭吉の別荘で顔馴染みだった幸徳秋水に爆裂弾製造の宮下太吉を紹介したとの嫌疑を受け、以後七年間尾行がつき、和歌山、長崎、新潟などを遍歴し大正三年諏訪の湯の脇に移り住む。『信陽新聞』『南信日々新聞』の俳句欄選者を担当し、句会の指導等諏訪俳壇の巨匠として君臨した。雪人は近代的な意味での文学者、俳人ではなく、伝統の風雅を固守する最後の『文人』であった。酒を愛し、清貧の中悠々自適に生きて昭和三十三年数え年八十七歳で没した。考古学、郷土史、美術品鑑定などにも秀でていた。



若き日の雪人

諏訪俳壇旧派の巨匠

小平雪人（せつじん）

明治五（一八七二）年〜昭和三十三（一九五八）年

湖東村（村制が敷かれたのは明治八年）上菅沢の医家に禎三・多よの次男として生まれる。本名探一。

中村学校（下等小学・中等科）の後南大塩学校の高等科を卒業、後上京（明治十九、二十、二十一年の三説あり）し、成立学舎を経て明治二十二年三月慶応義塾正科に入学（慶応義塾大学文学部とする本が多いが、大学になったのは大正七年の大学令による。ただし明治二十三年一月大学部が発足し、文学・理財・法律の三科が創設されたが雪人は在籍していない）。大学部発足に伴い正科・別科は普通部と呼ばれ、雪人は明治二十五年二期より正科から別科へ転じ、翌二十六年三月普通部卒業。

在学中芭蕉の弟子其角の直系である穂積永機（一八二三〜一九〇四其角堂七世↓阿心庵↓老鼠堂）に俳諧を学び熱中する。福沢諭吉（俳号雪池）に可愛がられ『竹縁や二つ行き交ふ蝸牛』は賞賛されたという。

卒業と同時に立机（りつき・一人前の宗匠となること）を許され、永機の養子となった。芝公園の紅葉館内にある阿心庵に起居し、業俳（職業俳人）として貴紳らと交わった。（立机とともに阿心庵継承とする本が多いが、明治二十八年までは永機が阿心庵を名のっており、阿心庵継承は『東京日々新聞』の「文苑」欄、『時事新報』の「楓山日抄」欄の主宰者となった明治二十九年中であつたと推測される。また前記二紙に明治二十二年俳句欄を創設し、新聞俳欄の嚆矢（こうし）とすると記す本があるが、二紙ともそのような欄は当時見当たらず、慶応入学の年を考

慮すれば現実性は乏しいと言えよう。なお明治三十年「俳諧同士倶楽部」の発足に際し老鼠堂永機、阿心庵雪人の名が見られる。）

森鷗外の未定稿のうち「今の俳派の別左の如し。日本派、秋声会、大学派、雪人派」とあり、明治二十六、七年の執筆と推定されているが、秋声会の発足は明治二十八年十月であり、実際に活動を始めたのは翌年からであつて鷗外の文はその年か翌三十年にかけてであろう。さすれば雪人が阿心庵を継承し、二紙の俳欄の主宰者となつたのと時間的に合うことになる。

雪人の活躍は俳諧革新を目指す正岡子規をして目を見張らせるものがあり、日本派（新聞『日本』に依る子規一派の称）への参加を度々要請したが雪人は伝統俳諧を守る正統派（蕉門の直系）として断っている。当時の俳壇からすれば旧派が支配的であり、子規の『日本派』は書生俳句に過ぎなかつた。俳壇のホープとして貴顕に交わり、得意の絶頂にあつた雪人にとっては片腹痛いことであつたに違いない。

明治二十八年、長兄小平治（明治元年生まれ。長野師範で保科五無齋と同期。さらに東京高師を卒業し長野師範教諭、坪井門下の考古学者）が急逝。小平家を相続せねばならぬ立場となる。

明治三十年、兄の遺品を収蔵する「龍谷文庫」の設立に尽力。永機とともに俳諧文庫（博文館発行）の『芭蕉全集』の校訂出版。また『読売新聞』に「近世俳人譚（ものがたり）」を二十回連載し『沢庵和尚全集』を編集するなど旺盛な活躍をみせたが、師永機との確執もあつてか帰郷することとなった。

以後雪人の編著には次のようなものがある。

其角全集（明治三十一年 永機と校訂）



吉川秀山による雪人画像でもっともよく面影を残しているという。酒盃を手にする雪人は何よりも酒を愛する人であった。若い日は大酒して野宿する日もあったという。

若き日、東都の俳壇の麒麟児として令名を馳せ、貴紳と交わりながら二十代半ばで故郷に隠棲したのは兄小平治の急逝による家督相続に因るだけでなく、雪人の人生観にもあったと思われる。晩年にいたって帰郷を「東京から逃げてきた」としばしば洩らしたという。何から逃れてきたかは詳らかではない。師としての軋轢、放蕩の精算、子規派との確執など考えられるが、雪人の以後の生き方を考えると貴紳と交わる華やかさから逃れてきたとの解釈も成り立つ。

俳句一筋、筆一本の清貧に生きた故郷五十年の生き方がそれを証明している。雪人は中世以来の文人の生き方を示した最後の人であり、俳句を文学と考える昨今の見方にはそぐわない存在であるといえよう。

太刀佩^{ひき}
神の屋^みのまゝの水^{みづ} 雪人

水晶^{すいしょう}代^{だい}文^{ぶん}鏡^{きょう}
墨^{すみ}きり 吉書^{きちしよ}外



本年は明治、大正、昭和の三代にわたり

諏訪地方を代表する俳人として活躍した小平雪人（一八七二—一九五八 茅野市湖東上菅沢出身）が没して、五〇周年にあたります。今では雪人の名を知らぬ層が増えており、また生涯、業績、意義を知る人も多くはありません。

雪人が諏訪の俳壇の盟主として君臨したのは、雪人個人の偉大さに負うだけでなく、雪人を頂点とする多数の俳句作者、愛好者の層があったからです。

企画展では雪人の俳人としての軌跡を中心にしなが、俳句を支持した人々、民衆にとって、俳句はいかなる意味を持っていたかを探っていききたいと思います。

雪人の俳句は芭蕉以来の伝統重視の世界であり、子規以来の近代俳句とは大きな違いがあります。近代俳句史からは全く無視されながら、諏訪地方を中心に多くの門弟が雪人に直接指導を受け、新聞の俳句欄で選句を受けた人は無数にいます。そうした民衆にあつて雪人や雪人俳句は何が魅力であり、彼らが俳句に求めたものは何であつたかを説明していきます。

俳諧概説

室町時代末ころ、連歌の中の滑稽（こっけい）を主とする俳諧連歌から独立した。数人で五七五と七七を繋（つな）いで一つの作品世界を作る連句と、連句の第一句が独立した発句（ほつく）とがあった。

はじめは言語遊戯的性格が強かったが、江戸時代に入り松尾芭蕉によって中世芸術理念である「寂」「閑雅（かんが）」「枯淡（こたん）」「美」の世界を追求することで芸術の域にまで高められた。

しかし次第に低俗化し、多くの弟子を集めて俳諧を生計の具とする宗匠が出現し、夫々の流派に細分化し、雪中庵・春秋庵・二六庵などと称し弟子から弟子へと受け継がれた。

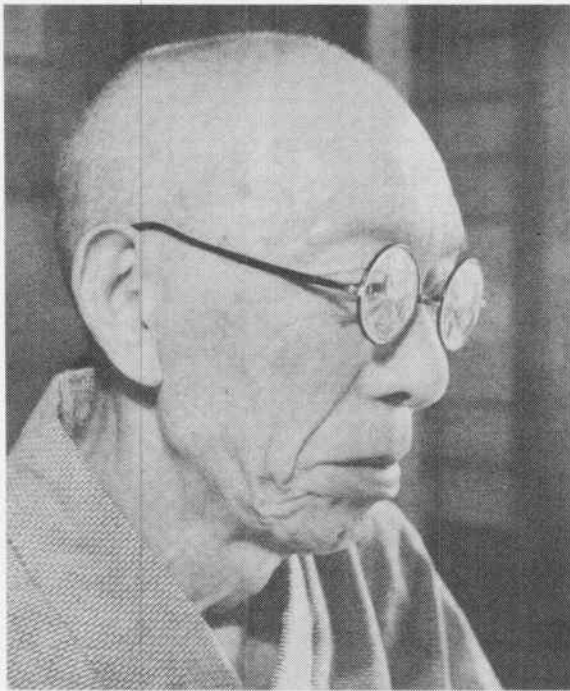
明治になり、正岡子規は文芸は個人に立脚するものという西洋の文学理念に則り、連句を排除し、発句を俳句と改めて近代化を図った。

茅野市制施行 50 周年・八ヶ岳総合博物館開館 20 周年記念

八ヶ岳麓文芸館特別展

没後 50 年

小平雪人 と諏訪の俳人たち



晩年の雪人



長田平次作 小平雪人像

企画展開催にあたり

茅野市制五十周年、八ヶ岳総合博物館創館二十周年を記念し、八ヶ岳麓文芸館主催の『没後五十年・小平雪人と諏訪の俳人たち』の開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

小平雪人は当市湖東の上菅沢に生まれ、慶応義塾に学びながら芭蕉の俳風の正統を伝える阿心庵永機に学び、「雪人伝説」というにふさわしい麒麟児ぶりを発揮して令名東都にはせる存在でした。正岡子規もそのような雪人を高く評価し、執拗に自派への加入を説いたとことです。

明治三十年、二十六歳にして様々な理由により帰郷、以後六十余年にわたって諏訪に住み続け、本業の俳句のほか郷土史、民俗学、考古学研究や書画骨董の鑑定など幅広い分野で活躍した巨人でした。酒を愛し清貧を旨として、「最後の文人」というにふさわしい八十七年の生涯を送りました。

雪人が旧俳諧の諏訪のトップ（盟主）であり得たのは雪人個人の偉大さに因るのみでなく、それを支えた幅広い裾野の人々があったからです。集落々々には俳句の結社があり、雪人の指導を仰いだ結社も沢山あります。南大塩の宮坂英式尖石考古館館長が属した「牧馬会」などもその一つです。雪人の旧派の俳諧は「自己の発見」や「人間探求」を旨とする近代俳句と異なり、従来の伝統を重んじ、風流風雅をモザイクのように織りなすものでした。そこには風雅に遊ぶ潤いと社友と遊ぶ楽しみがありました。人々は俳諧、俳句に打ち込むことで日々の労苦、世俗のせちがらさを忘れ得たのです。

雪人の活躍する以前、江戸時代から諏訪には俳諧の伝統が根付いており、明治以降も芭蕉の俳風はもとより、子規を祖とする近代俳句も盛んでした。

当企画がそんな諏訪の俳句世界を知っていただける一助となれば幸いです。

平成二十年九月

茅野市八ヶ岳総合博物館

茅野市八ヶ岳麓文芸館

館長 茅野靖夫

文芸特別企画展

没後五〇年

『小平雪人と諏訪の俳人たち』

会 期 平成二〇年九月一三日（土）（

平成二一年三月一日（日）

主催・会場 茅野市八ヶ岳麓文芸館

凡 例 本書は企画展にあわせて作成した図録に、展示したパネル原稿を加え、再編集したものです。

目次

文芸部門

・文芸特別企画展

茅野市制施行五〇周年・八ヶ岳総合博物館開館二〇周年記念

「没後五〇年 小平雪人と諏訪の俳人たち」

「小平雪人と諏訪考古学の黎明」

一

伊藤俊彦
(3)

小林深志
(23)

紀 要 第 17 号

平成 21 年 3 月 31 日発行

編集発行 茅野市八ヶ岳総合博物館

〒 391-0213

長野県茅野市豊平 6983 番地

T E L 0266 (73) 0300

F A X 0266 (72) 6119

紀 要

第十七号 《平成二十年度》

茅野市八ヶ岳総合博物館